

実務経験のある教員等による授業科目一覧

学科名（修業年限）	ミュージックスタッフ科（2年） コンサートプロデュース専攻
-----------	----------------------------------

1年次			
授業科目名	単位数	実務経験 教員	シラバス ページ番号
キャリアデザイン(1)	4	○	MS1-01
音楽理論	4	○	MS1-03
電気音響概論	4	○	MS1-04
照明概論	4	○	MS1-05
イベントプロデュース演習	4	○	MS1-06
舞台美術実習(1)	2	○	MS1-07
映像編集実習	2	○	MS1-09
PA・SR実習(1)	4	○	MS1-10
レコーディング実習(1)	4	○	MS1-11
Pro Tools実習(1)	2	○	MS1-12
舞台機構調整技能講座(1)	4	○	MS1-13
コンサート実践(1)	2	○	MS1-14

合計単位数 40

学科名（修業年限）	ミュージックスタッフ科（2年） 舞台美術照明専攻
-----------	-----------------------------

1年次			
授業科目名	単位数	実務経験 教員	シラバス ページ番号
キャリアデザイン(1)	4	○	MS1-01
音楽理論	4	○	MS1-03
電気音響概論	4	○	MS1-04
照明概論	4	○	MS1-05
イベントプロデュース演習	4	○	MS1-06
舞台美術実習(1)	2	○	MS1-07
映像編集実習	2	○	MS1-09
PA・SR実習(1)	4	○	MS1-10
レコーディング実習(1)	4	○	MS1-11
Pro Tools実習(1)	2	○	MS1-12
舞台機構調整技能講座(1)	4	○	MS1-13
コンサート実践(1)	2	○	MS1-14

合計単位数 40

学科名（修業年限）	ミュージックスタッフ科（2年） コンサートプロデュース専攻
-----------	----------------------------------

2年次			
授業科目名	単位数	実務経験 教員	シラバス ページ番号
キャリアデザイン(2)	4	○	MS2-16
舞台機構調整技能講座(2)	8	○	MS2-17
舞台演出実習A	4	○	MS2-19
コンサート実践(2)	2	○	MS2-20
エンターテインメントビジネス	4	○	MS2-21
コンサートプロデュース実習	11	○	MS2-22
プロモーション演習	8	○	MS2-23

合計単位数 41

学科名（修業年限）	ミュージックスタッフ科（2年） 舞台美術照明専攻
-----------	-----------------------------

2年次			
授業科目名	単位数	実務経験 教員	シラバス ページ番号
キャリアデザイン(2)	4	○	MS2-16
舞台機構調整技能講座(2)	8	○	MS2-17
コンサート実践(2)	2	○	MS2-20
舞台演出実習B	4	○	MS2-24
【選択A】ステージライティング実習(2)	14	○	MS2-31
【選択A】舞台照明プランニング実習	4	○	MS2-32
【選択B】舞台美術実習(2)	14	○	MS2-33
【選択B】舞台美術図面制作実習	4	○	MS2-34

合計単位数 54

総合計単位数(2年間) 81

総合計単位数(2年間) 94

実務経験のある教員等による授業科目一覧

学科名(修業年限)	ミュージックスタッフ科(2年) PA エンジニア 専攻
-----------	--------------------------------

1年次			
授業科目名	単位数	実務経験 教員	シラバス ページ番号
キャリアデザイン(1)	4	○	MS1-01
音楽理論	4	○	MS1-03
電気音響概論	4	○	MS1-04
照明概論	4	○	MS1-05
イベントプロデュース演習	4	○	MS1-06
舞台美術実習(1)	2	○	MS1-07
映像編集実習	2	○	MS1-09
PA・SR実習(1)	4	○	MS1-10
レコーディング実習(1)	4	○	MS1-11
Pro Tools実習(1)	2	○	MS1-12
舞台機構調整技能講座(1)	4	○	MS1-13
コンサート実践(1)	2	○	MS1-14

合計単位数 40

学科名(修業年限)	ミュージックスタッフ科(2年) レコーディング・MA 専攻
-----------	----------------------------------

1年次			
授業科目名	単位数	実務経験 教員	シラバス ページ番号
キャリアデザイン(1)	4	○	MS1-01
音楽理論	4	○	MS1-03
電気音響概論	4	○	MS1-04
照明概論	4	○	MS1-05
イベントプロデュース演習	4	○	MS1-06
舞台美術実習(1)	2	○	MS1-07
映像編集実習	2	○	MS1-09
PA・SR実習(1)	4	○	MS1-10
レコーディング実習(1)	4	○	MS1-11
Pro Tools実習(1)	2	○	MS1-12
舞台機構調整技能講座(1)	4	○	MS1-13
コンサート実践(1)	2	○	MS1-14

合計単位数 40

学科名(修業年限)	ミュージックスタッフ科(2年) PA エンジニア 専攻
-----------	--------------------------------

2年次			
授業科目名	単位数	実務経験 教員	シラバス ページ番号
キャリアデザイン(2)	4	○	MS2-16
舞台機構調整技能講座(2)	8	○	MS2-17
コンサート実践(2)	2	○	MS2-20
PA・SR実習(2)	14	○	MS2-25
音響概論(2)	4	○	MS2-26
Pro Tools実習(2)	4	○	MS2-35

合計単位数 36

学科名(修業年限)	ミュージックスタッフ科(2年) レコーディング・MA 専攻
-----------	----------------------------------

2年次			
授業科目名	単位数	実務経験 教員	シラバス ページ番号
キャリアデザイン(2)	4	○	MS2-16
舞台機構調整技能講座(2)	8	○	MS2-17
コンサート実践(2)	2	○	MS2-20
JAPRS SR検定対策	4	○	MS2-27
JAPRS PT検定対策	4	○	MS2-28
レコーディング実習(2)	14	○	MS2-29
MA実習	4	○	MS2-30
Pro Tools実習(2)	4	○	MS2-35

合計単位数 44

総合計単位数(2年間) 76

総合計単位数(2年間) 84

授業科目名	キャリアデザイン(1)		担当者名	三浦 貴子			
			実務経験	企業団体教育研修・秘書検定面接審査員			
教科書 教材	2025年ビジネス能力検定ジョブパス	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
	3級公式テキスト	4					
	3級公式試験問題集	時間数					
		60	ミュージックスタッフ科	1年	通年	必修	講義
授業概要	社会人としての基本的な考え方を身に着けると共に、社会人に広く求められるマナー等の知識を身に着け、実践できる事を目指し、社会人としてふさわしい人物像へと成長する事を目的とします。						
学習到達目標	・自身のキャリア形成の中で役立つ知識を習得する。・社会人として必要と言われるマナーやルールを理解する。 ・コミュニケーション能力を修得し他者との円滑な関係を構築する。 ・自己分析を通じ、自己の柱を認識し、社会人として環境の変化に対する対応力を高める。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、ジョブパス3級公式問題集を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。 ビジネス能力検定試験合格および技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。						
評価方法	定期試験(60%)、演習(20%)、平常点(20%)						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	ジョブパス試験概要・期待される社会人、職業人を目指して			試験対策、キャリア形成の基本的考え方の習得			
2	【第1編】第1章 キャリアと仕事へのアプローチ			働く意識・仕事への取り組み方を理解			
3	第2章 仕事の基本となる8つの意識／顧客意識			お客さま満足度を高める必要性と行動の理解			
4	第2章 仕事の基本となる8つの意識／品質意識・納期意識・時間意識			顧客意識を中心とした7つの意識の理解			
5	第2章 仕事の基本となる8つの意識／目標意識・協調意識・改善意識・コスト意識			顧客意識を中心とした7つの意識の理解			
6	第3章 コミュニケーションの基本			社会人としてのコミュニケーションの重要性を理解			
7	第3章 ビジネスマナーの基本			身だしなみ、入社から退社までの各種ルールを理解			
8	第4章 指示の受け方と報告			仕事の指示の受け方と完了した時点での報告の要点			
9	第4章 連絡・相談の仕方と、忠告の受け方			社内外での連携で必要な各種手段と要点の理解			
10	第5章 話し方のポイント			ビジネスの場にふさわしい話し方、正しい敬語の習得			
11	第5章 聞き方のポイント			聞く・聴く・訊くちからの習得			
12	第6章 来客対応の基本マナー			来客対応の基本、お客様案内の仕方、茶菓対応等理解			
13	第6章 訪問の基本マナー			名刺交換、紹介の仕方、訪問の基本を理解			
14	第7章 会社関係でのつきあい			会食マナー、冠婚葬祭の基本を理解			
15	前期末試験			ジョブパス検定3級レベルの筆記試験で習熟度確認			
16	【第2編】第1章 仕事への取り組み方			スケジュール管理等、正確で計画的な進め方			
17	第1章 パソコンは仕事の基本・電子メールの活用			パソコン活用での要点と注意点の確認			
18	第2章 ビジネス文書の基本・社内文書			社内文書の種類と基本的構成の理解			
19	第2章 ビジネス文書の基本・社外文書			社外文書の種類と基本的構成、郵便の理解			
20	第3章 電話応対 電話の受け方・取り継ぎ方			固定電話の使い方から、電話での言葉遣いの理解			
21	第3章 電話応対 電話のかけ方・携帯電話のマナー			ロールプレイングを通して電話応対の実践を身につける			
22	第4章 統計・データの読み方・まとめ方			表・グラフの役割と特徴、活用方法を理解			
23	第5章 情報収集とメディアの活用 情報の取捨選択・インターネットからの情報収集			情報収集の手段と各特徴の理解			
24	第5章 情報収集とメディアの活用 新聞からの情報収集			新聞の特徴と種類、新聞の読み方の理解			
25	第6章 会社を取り巻く環境と経済の基本			日本経済の基本構造と変化を理解			
26	ビジネス用語の基本			社会人として押さえておきたいビジネス用語を正確に理解			
27	ビジネス能力検定3級試験対策1			過去問題を通して理解度を確認			
28	ビジネス能力検定3級試験対策2			過去問題を通して理解度を確認			
29	ビジネス能力検定3級試験対策3			過去問題を通して理解度を確認			
30	学年末試験			ジョブパス検定3級レベルの筆記試験で習熟度確認			

授業科目名	音楽理論		担当者名	内ヶ崎雅人			
			実務経験	ヤマハ東北地区A&Rディレクター、作編曲等、Mixエンジニアなど			
教科書 教材	配布資料(プリント、PDF)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数					
		60	ミュージックスタッフ科	1年	通年	必修	講義
授業概要	楽譜、コード、リズムなどの音楽理論と実際の音楽業界で必要な基礎となる音楽ジャンルや楽器の知識を学ぶ。						
学習到達目標	基礎:音楽業界で仕事するために必要な楽器や音楽知識の基礎を実際のコミュニケーションで理解、判断できる。 標準:楽譜を楽曲を聴きながら目で追えるようにする。コード(3、4和音)や調の仕組みや構造を知る。楽曲の構成や小節数を書き出せる。 応用:音楽や楽器を聴いてジャンルや地域性を判断できる。ヒット楽曲のコード進行やジャンルの特徴的にポイントを判断できる、音楽チャートの傾向を読み取れる。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。 専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、音楽理論(音符、調、和音など)は、ある程度の反復作業が必要となるため、授業内で出された問題を資料を見ながら繰り返し解いておくこと。						
評価方法	出席率(10%程度)・筆記試験の結果(90%程度)を総合的に評価						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	授業の進め方や概要を説明。			授業で準備するものや概要を説明、進め方を確認してもらいます。			
2	五線譜の基礎的な読み方、楽譜の種類について			様々な現場で使用される楽譜の種類を説明します。録音や、ステージでの楽譜の違いを判断できるようにします。			
3	小節とは、楽譜記号の説明、反復記号①			楽譜の小節の区切り方やリピータ記号を説明、簡単な楽譜の順番を追えるようにします。			
4	反復記号②			リピータマークの応用例や、ダ・カーボなどを経験談を踏まえて説明、20～30小節の譜面を追えるようにします。			
5	反復記号③、リハーサル記号の名称と役割と説明			一般的な楽曲分の構成を想定した、反復記号やリハーサルマークの説明、楽曲の構成をみ立て方を読み取る準備をします。			
6	楽曲を想定した構成譜の読み取りや作成			反復記号、リハーサルマークを利用した構成譜を、バンドで演奏、レコーディングなど 実践的な譜面として作成。			
7	拍子、テンポについて			楽曲の拍子やテンポの考え方を説明、簡単な拍を取れるようにします。			
8	音符、休符、リズム譜について			音符、休符とリズムの関係性を説明、基本的なドラムやビートを読み取れるようにします。			
9	音名、音階、音部記号、調号について			譜面、音階を読むための記号の説明、楽譜で音の高低を追えたり、どの音が答えられるようにします。			
10	音程(完全音程、長音程、短音程)について			音と音の間隔や組み合わせ(degree)を楽器を例に説明、音程を答えられるようにします。			
11	長調(メジャースケール)について			長音階について、ピアノとギターで説明、各調の音階や調合を答えられるようにします。			
12	短調(マイナースケール)について			短音階について、ピアノとギターで説明説明、各調の音階や調合を答えられるようにします。			
13	平行調、同主調について			各調とスケールの関係性、聞こえ方について説明、平行調、同主調を答えられるようにします。			
14	前期末試験対策授業			前期の総合問題を通して、復習も兼ねつつ重要点の再確認を前期試験の準備をします。			
15	前期末試験			筆記試験			
16	前期試験の解答と解説						
17	3和音(トライアドコード)について			コードネームから和音がどう構成されているかの仕組みを説明、コードから構成音、構成音からコードを判別できるようにします。			
18	4和音について(7thコード)①			3和音に短7度を追加した構成と機能を説明、コードネーム、構成音を音符に書き出せるようにします。			
19	4和音について(7thコード)②			3和音に短7度を追加した構成と機能を説明、コードネーム、構成音を音符に書き出せるようにします。			
20	メジャーダイアトニックコードについて			調とコードの関係性を説明、各調の主要なコードを書き出せるようにします。			
21	音楽ジャンル①			基礎的なクラシック音楽、管弦楽、吹奏楽、室内楽を説明できる。			
22	音楽ジャンル②			基礎的な日本、中国、インドの音楽、楽器を説明できる。			
23	音楽ジャンル③			基礎的なアフリカ、イタリア、スペインの音楽、楽器を説明できる。			
24	音楽ジャンル④			基礎的なロシア、ドイツ、スイスの音楽、楽器を説明できる。			
25	音楽ジャンル⑤			基礎的な南米、ラテン音楽、ハワイの音楽、楽器を説明できる。			
26	楽曲の構成譜作成			楽曲から、構成や小節数を読み取り書き出せる。			
27	ランキングチャートについて			現在のチャートから見える情報をヒットの実例の紹介。ランキングから情報を読み取る。			
28	音律について			時代によって考えられた音律を説明、時代でのチューニングの違いを説明できる			
29	後期末試験対策授業			後期の総合問題を通して、復習も兼ねつつ重要点の再確認を前期試験の準備をします。			
30	後期末試験			筆記試験			

授業科目名	電気音響概論		担当者名	内ヶ崎雅人			
			実務経験	ヤマハ東北地区A&Rディレクター、作曲編曲等、Mixエンジニアなど			
教科書 教材	・配布資料(プリント、PDF)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
	・音響映像設備マニュアル2025年改訂版	4					
		時間数 60					
			ミュージックスタッフ科	1年	通年	必修	講義
授業概要	音響機材や照明機材で使用する電気の基礎(直流・交流)を理解と、計算式、専門課程で使用される機材の役割と、ケーブル及びマイクなどの構造の説明します。						
学習到達 目標	目に見えない危険な電気なので安全に使用する為、基礎的な知識や扱い方を覚えて実際の現場でのトラブルや事故の発生率を下げる。						
時間外に 必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、用語や計算式が多いため、ある程度の反復作業が必要となるため、授業内で出された問題を資料を見ながら繰り返し解いておくようにすること。						
評価方法	出席率(10%程度)・筆記試験の結果(90%程度)を総合的に評価						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	授業の進め方について						
2	強電、弱電、直流交流について			基礎的な電気の知識について説明、電気の種類や違いを判断できるようにする。			
3	発電の仕組み、電磁誘導			義務教育で習ったものの復習を含め、現状の電気の背景も説明。電気の取り扱い方見直す。			
4	フレミングの法則、直流回路図			直流の仕組みを説明。基本的な電気の仕組みや機能を説明できるようにします。			
5	オームの法則、電力の計算			抵抗について、計算と電力の計算をでき、日常の表記を見て理解できるようにします。			
6	直列接続、並列接続、ケーブルのプラグについて			スピーカーを例にし直列、並列接続とプラグ種類を説明。ステージなどで扱うケーブルの種類を判断できる。			
7	バランス回路、アンバランス回路について			ケーブルの仕組みと理由を説明、ステージなどで扱うケーブルの種類を判断できるようにします。			
8	マイクロフォンについて			ダイナミックマイク、コンデンサーマイクの仕組みを説明。それぞれ扱い方や用途に対応できる。			
9	指向性、周波数特性について			マイクなどの指向性、周波数の特性について説明。マイクによる使い分けや特徴を判別できるようにします。			
10	音の伝わる仕組み、音の3要素			聴覚の仕組み、音の聞こえ方などふまえ、音速や音の3要素を説明、吸音や防音対、機材設置の対応をできるための基礎。			
11	音のエンベロープについて			音の立ち上がり、減衰について説明し、楽器の発音特性などを理解します。音の特性を説明できるようにします。			
12	音場、音の屈折、回折			音の進み方、聞こえ方現象を説明。環境、状況においての判断や対応をできるようにする。			
13	音響心理とその効果			ラウドネス効果、騒音などが人を感じる音響効果を説明。日常での効果を改めて認識する。			
14	前期末試験対策授業			前期の総合問題を通して、復習も兼ねつつ重要点の再確認を前期試験の準備をします。			
15	前期末試験			筆記試験			
16	デジタルの基礎			記録方式のアナログ、デジタル方式、2進数、16進数の計算。普段から扱うデジタルデータの対応を適切にする。			
17	デジタルオーディオの基礎			デジタルオーディオのフォーマットや録音方式などを説明。ソフトウェアや機材に適切なフォーマットに対応できる。			
18	さまざまな音楽パッケージ、配信、立体音響など			現在の音楽シーンなどのメディア、音響方式、今後の機材やメディアに対応する準備ができる。			
19	抵抗器、カラーコード、ジュールの法則について			カラーコードの計算、ジュールの計算を説明。抵抗器の用途と抵抗値を読み取ることができる。			
20	コンデンサ			コンデンサの仕組みを説明。コンデンサを使用した機材や用途を説明できる。			
21	導体の抵抗			ケーブルの動体の抵抗の計算、仕組みを理解。実践の取り扱いや状況に応じての対応を判断できる。			
22	合成静電容量			合成静電容量の直列、並列計算ができる。			
23	総合問題			今までの復習を兼ねて計算問題を中心にを解けるようにする			
24	インダクタ、トランス			直流・交流の違いを確認し、それぞれ用途や役割を説明できる。			
25	交流電力の最大値、平均値、実行値			交流の仕組みを理解することで、電気の許容量に判断して、トラブル回避ができる。			
26	皮層、有効、消費電力			電力の仕組みをと消費電力を説明できる。			
27	エフェクター①イコライザーについて			イコライザーの仕組み用途を説明。実践で扱うための機能や動作を理解し適切に操作できるようにする。			
28	エフェクター②コンプレッサーについて			コンプレッサー仕組み用途を説明。実践で扱うための機能や動作を理解し適切に操作できるようにする。			
29	後期末試験対策授業			後期の総合問題を通して、復習も兼ねつつ重要点の再確認を前期試験の準備をします。			
30	後期末試験 本番			筆記、リスニング試験			

授業科目名	照明概論		担当者名	柴成美			
			実務経験	現場経験15年以上			
教科書 教材	舞台・テレビジョン照明	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数					
		60	ミュージックスタッフ	1年	通年	必修	講義
授業概要	1,劇場・舞台機構と照明器具紹介と実演 2,図面の見方(基本と応用)・光と色の仕組み 3,舞台照明の1日の仕事・作業の流れ						
学習到達目標	1,講義を通して舞台照明の世界と仕事を「知る」「記録・記憶する」そして「理解」し、高得点の結果・成果につなげる 2,知り得た情報を実践で積極的に試し挑む心と備えの育成 総合して、多くの情報を得て実践に役立てる参考材料として講義を利用活用し進級を目指す						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、「ノート整理」「テキスト管理」を徹底して行うこと。						
評価方法	筆記100点						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	前期授業内容の説明と自己表現			講義内容の把握と自己評価の分析			
2	業界の挨拶と服装、劇場の種類について			働く環境の情報を得て視野・興味を広げる			
3	舞台機構について			舞台設備の情報を知り興味を与える			
4	照明器具の取り扱い「説明」「実演」①			種類と独自の効果 用途別に作業選択の向上を目指す			
5							
6							
7							
8	照明器具の取り扱いについて「説明」と「実演」②			特殊器具の種類・特徴と用途別選択向上			
9							
10	照明器具「付属器具」についての「説明」と「実演」			器具に取り付けるアクセサリーの情報を得る			
11							
12	仕込み図(基本)			図面を読み考察・行動に活かす			
13	舞台用語と光の名称			舞台を演出する名のある光の情報を得る			
14	前期末筆記試験			結果と成果を位置づける			
15	前期末試験結果の発表と見直し・分析			後期の課題目標を定める			
16	仕込み図(応用)			許容量と電気回路について把握する			
17	許容電力・電流/種類と用途			ケーブル・コネクタの種類と用途別への理解			
18	光と色①			日本の製品の情報を得る			
19	光と色②			海外の製品、光と眼の構造の仕組みの理解			
20	光と色の三原色			光と色の関係性と創造性の向上			
21	舞台における照明の仕事			実際の現場での流れと結び付ける			
22	舞台における照明の仕事「作業時の初動」			準備・積込みに必要な心得と安全管理			
23				会場環境の把握と作業工程の読解			
24	舞台における照明の仕事「作業時の手順」			手順と流れの対応力を付ける			
25				行動力の促進を図る			
26	舞台における照明の仕事「明り作りとりハーサル」			舞台・演者・技術者の関係性			
27							
28	舞台における照明の仕事「本番と撤去」			ポジションの役割情報を知り備える 舞台を観る心得の理解を深める			
29	後期末筆記試験			結果と成果を試す覚悟で挑む姿勢			
30	後期末試験結果の発表と見直し・分析			来年への目標と自己分析			

授業科目名	イベントプロデュース演習		担当者名	関口修			
			実務経験	舞台監督・イベント制作に携わり35年の経験がある。			
教科書 教材	・配布資料(プリント、データ) ・資料映像	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数 60					
授業概要	イベントに必要なプロセス、役割、企画書、資料作成、運営の基礎知識を講義						
学習到達目標	企画書作成の基礎をもとに、自分の提案するアイデアを書類に作成できる。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、企画書作成に必要な用語や考え方やアイデアをまとめる工夫をし、楽器の種類や名前、特徴など必要な用語は全て習得すること。						
評価方法	授業態度10%、中間試験20%、期末試験70%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	講義内容の説明・心構え10箇条・使用する道具紹介			心構えを持って人間関係を作る。 使用する道具を体験し必要な物を準備する。			
2	リスクマネジメント イベント事故・事件			過去のイベント事故・事件を知り、 危険を予測する事を知り実践する。			
3	名義と役割			イベントを企画する上で必要な組織構成を知り、 イベント運営の構成が説明できる			
4	スタッフ間の役割			各部署がどのような段取りで作業準備し本番に 臨むのかを知り、資料作成に生かす。			
5	リハーサルの種類			現場における最善なりハーサルを選択する。			
6	前期中間試験／解答解説			全5回の講義内容の理解度の確認と解説			
7	基本的なエレキギターとギターアンプの基礎知識			スタッフとして基本的な楽器の知識をもとに 出演者の要望に対応する。			
8	基本的なエレキギターとギターアンプの基礎知識						
9	基本的なエレキベースギターの基礎知識						
10	基本的なドラムセットの基礎知識						
11	ドラムセットの組立講習						
12	ドラムセットの組立講習						
13	様々なイベントの演出紹介			様々な演出を知ることで、その方法や必要性を 読み解き、自身が提案する演出の素材とする			
14	前期講義のまとめ			前期講義の復習			
15	前期末試験			前期講義の理解度を確認			
16	前期末試験の解答解説 復習			前期講義のまとめと復習 後期に向けての準備			
17	企画書作成実習①			企画書における明確なコンセプトを資料にできる			
18							
19	企画書作成実習②			アイデアをまとめた企画書をPCにて作成し提案する。			
20							
21							
22							
23							
24							
25	企画プレゼンテーション			自分の企画を面前で説明する機会を体験する。			
26	卒業制作D-POP2026			2年生の卒業制作実習を視察し、翌年の参考とする			
27	卒業制作D-POP2026の解説と2027の課題			卒業制作2027へ要望やアイデアの整理			
28	日本の暦 年中行事			日本人の知るべき暦や年中行事の意味を知り、 企画立案の知識として生かす。			
29	後期講義のまとめ			後期講義の復習			
30	後期末試験(学年末試験)			年間講義の理解度を確認			

授業科目名	舞台美術実習(1)		担当者名	木 村 芳 孝			
			実務経験	テレビ、舞台美術50年の実務経験			
教科書 教材	講師作生プリント配布	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数					
		60					
			ミュージックスタッフ科	1年	通年	必修	講義・実習
授業概要	舞台美術の基礎を、実務体験を伝えること、また実習を行うことにより教科書や理論では得られない実務型従業とする。						
学習到達目標	基礎知識を理解習得し、実現場体験(実習)を遂行できる基礎的力を習得させる。また、卒業後は短期間で即戦力となり業界で活躍する人材育成を目指す。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に 行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、舞台の基礎知識について整理し理解 すること。						
評価方法	期末テスト、課題提出、実習取り組み姿勢、出席率等を総合的に判断して評価する。 出席率20%、課題30%、期末テスト50%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	舞台美術総論			舞台、テレビ業界の基礎を知ることにより2年間学ぶ本 教科の具体的基礎知識を取得、卒業後即戦力として現場 で学んだ知識を実践できることを目標とする。			
2	・舞台美術とは(誰もが毎日目にしているものである)						
3	・舞台美術のジャンル(芝居、音楽、テレビ、映画、他)						
4	・テレビ、舞台の制作現場の組織。劇場の種類、形式、特徴。						
5	舞台機構の名称と役割(図面配布)			舞台機構の国家試験出を受験できる知識、能力。舞台の 基礎知識を実際の舞台と図面で学び、実現場で実践でき ることを目標とする。			
6	・舞台の幕、およびバトンの名称とその役割。						
7	・舞台用語と基礎大道具。						
8	尺貫法について(現材でも業界では使われている長さの単位)			尺貫法を自由に使いこなせる。			
9	基本大道具(平台、箱馬、人形、シズ、他)			会館、スタジオに常備する大道具を使いこなせる能力を 身に着ける。			
10	・平台、箱馬の組み方(実物を使用しての実習)						
11	・平台、箱馬の組み方(ミニチュアを使用しての練習)						
12	舞台美術の仕事(企画から公演まで)			美術部門の具体的な仕事の流れを理解する。			
13	・舞台美術と照明、音響、映像との関係。						
14	図面の基本①(種類、表示の意味、寸法の見方、図面の約束事) ・舞台図面の作図(平面図を見て正面図を作図する)			舞台美術に必要な図面を理解し、図面を作成する能力身 に着ける。			
15	前期テスト			舞台機構、尺貫法、図面等			
16	前期テスト 解説			舞台機構、尺貫法、図面等			
17	実習(ロープ、ワイヤーの結束、幕の吊り方、たたみ方)			時間制限、危険な作業を体験することにより時間の使い 方を理解する。			
18	実習(バトンの操作、吊り方、バランスの取り方)			危険の回避を体で覚え実社会で即戦力となることを目 指す。			
19	巨大迷路で遊ぶ			実物大迷路を作り、実現場で作業を実践できるようにな る。			
20	幕と場(芝居のデザイン)			童話桃太郎を学芸会用にデザインする。			
21	舞台図面の基本②			舞台美術に必要な図面を理解し、図面を作成する能力を 身に着ける。			
22	・投影図、勾配で立体形を知る。						
23	・図面練習						
24	D-POP鑑賞			次年度専攻の参考にする。			
25	迷路を作る(図面～模型)			舞台美術の流れを模型製作をすることによりデザ イン図面等の提案をし、説明できるようになる。			
26	・デザインから現場制作までの流れをも系制作でおこなう。						
27	・迷路のプラン、平面図の作成。						
28	・平面図をもとに模型製作をする。						
29	仕掛け物と特殊効果(ゆき、桜吹雪、振り落とし、屋台崩し、他)			実現場で体験することより使いこなせるようになる。			
30	後期テスト			テストと課題により評価。			

授業科目名	映像編集実習		担当者名	田村康晴								
			実務経験	株式会社東北記録映画社20年以上実務経験								
教科書	・サンプル映像素材	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法					
	・サンプル音源等	2										
	・PremierePro&AfterEffects	時間数						ミュージックスタッフ科	1年	通年	必修	講義・実習
		60										
授業概要	映像編集ソフト・Adobeプレミアを使用し、編集の基本を習得し、映像分野の楽しさを重視する。 特にミュージックビデオ・ライブビデオの編集を行い、ミュージックスタッフ科としての習得の幅を広げる。											
学習到達目標	CM制作、ミュージックビデオ・ライブビデオを中心に、感性・感覚を身につけ、映像分野の楽しさと難しさを感じること。											
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、作業効率化に向けたマニュアルの更新と振り返りを継続すること。											
評価方法	出席率10%、授業意欲10%、課題提出30%、期末試験50%											
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など								
1	自己紹介 映像の世界とは			自己紹介・映像の仕事についての説明								
2	映像編集・Adobeプレミアプロの基本操作			Adobe premiereの取込・書き出しが完遂できる								
3	映像編集・Adobeプレミアプロの基本操作			premiereのエフェクト効果ができるようになる								
4	映像編集・Adobeプレミアプロの基本操作			premiereの音量調整ができるようになる								
5	映像編集・Adobeプレミアプロの基本操作			premiereのテロップ打ちができるようになる								
6	CM制作 5分の映像を30秒に編集する実施			不必要な映像をカットできるようになる								
7	CM制作 5分の映像を30秒に編集する実施			必要な映像を起承転結に並べることが出来る								
8	CM制作 5分の映像を30秒に編集する実施			テロップの色彩感覚を整えることが出来る								
9	CM制作 5分の映像を30秒に編集する実施			テロップのフォント・大きさ・配置を整えることが出来る								
10	CM制作 5分の映像を30秒に編集する実施			テロップを動かすことが出来る								
11	試写会・総評			総評								
12	CM制作 5分の映像を30秒に編集する実施②			カラーコレクターを調整できる								
13	CM制作 5分の映像を30秒に編集する実施②			エフェクトの効果初級を完遂できる①								
14	CM制作 5分の映像を30秒に編集する実施②			エフェクトの効果応用を完遂できる②								
15	前期テスト			実技テスト								
16	CM制作 5分の映像を30秒に編集する実施②			音・ラウドネスの構造・原理を習得する								
17	CM制作 5分の映像を30秒に編集する実施②			premiereでのラウドネスを実践・完遂する								
18	試写会・総評			総評								
19	ライブ映像編集 講義 カメラの構図・撮り方等			音楽ライブの編集方法講義								
20	ライブ映像編集 実習 ライブ編集のやり方実践			Premiereのライブ素材の取込方を習得する								
21	ライブ映像編集 実習			Premiereのライブ素材の全カメラをリンクする								
22	ライブ映像編集 実習			ライブ素材の全カメラ・映像を編集する								
23	ライブ映像編集 実習			ライブ素材の全カメラ・音声を編集する								
24	ライブ映像編集 実習			ライブ素材の全カメラ・エフェクト効果を完遂する								
25	試写会			試写会								
26	ライブ映像編集 実習			ライブ素材の歌詞テロップのつけ方を実践								
27	ライブ映像編集 実習			ライブ素材の歌詞テロップを完成させる								
28	ライブ映像編集 実習			ライブ素材を書き出し完成させる								
29	試写会			全体試写会・総評								
30	後期テスト			実技テスト								

授業科目名	PA・SR実習(1)		担当者名	石田 拓			
			実務経験	舞台音響の会社で3年勤務			
教科書 教材		単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数 120					
			ミュージックスタッフ科	1年	通年	必修	実習
授業概要	コンサートPAの基礎から実践運用までを段階的に学ぶ。						
学習到達目標	PAシステム全体を理解できる* マイク選定・マイキングができる* アナログ／デジタル卓を操作できる						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、コンサート鑑賞等を行うこと。						
評価方法	・出席授業態度20%・実習課題20%・最終実技試験60%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	ガイダンス／PAの仕事			PAエンジニアの役割と授業概要を説明できる			
2	音の基礎① 周波数			周波数と音程の関係を理解できる			
3	音の基礎② 波長			波長と音の伝搬を説明できる			
4	音の基礎③ dB			dBと音圧レベルを理解できる			
5	音の基礎④ 位相			位相干渉の仕組みを理解できる			
6	聴覚特性			人間の聴覚特性を説明できる			
7	反射・残響			反射音と残響の影響を理解できる			
8	ケーブル基礎			主要なケーブルを識別できる			
9	コネクタ基礎			各種端子の用途を説明できる			
10	信号の流れ			PAシステムの信号経路を説明できる			
11	電気基礎			電源と安全管理を理解できる			
12	インピーダンス			インピーダンスの概念を説明できる			
13	ゲイン構造			適切なゲイン構造を理解できる			
14	マイク原理			マイクの動作原理を説明できる			
15	ダイナミックマイク			ダイナミックマイクを適切に選択できる			
16	コンデンサーマイク			コンデンサーマイクを適切に使用できる			
17	指向性			マイク指向性を用途別に選択できる			
18	ボーカルマイキング			基本的なボーカル收音を実践できる			
19	ギターアンプ收音			ギターアンプの基本收音ができる			
20	ベース・DI			DI接続を適切に行える			
21	アコースティック楽器收音			アコースティック楽器を適切に收音できる			
22	ドラムマイキング①			ドラム基本マイク配置を実践できる			
23	ドラムマイキング②			位相を考慮した配置ができる			
24	ワイヤレスマイク			ワイヤレス運用の基礎を理解できる			
25	入力リスト作成			チャンネル表を作成できる			
26	ステージ図面			基本的なステージ図を作成できる			
27	アナログ卓基礎			アナログ卓の基本操作を行える			
28	入力ゲイン調整			適切なゲイン設定ができる			
29	EQ基礎			EQによる音質調整ができる			
30	EQ応用			周波数帯域を意識した音作りができる			

授業科目名	レコーディング実習(1)		担当者名	伊藤 司			
			実務経験	(有)音屋で8年勤務・フリーランスエンジニアとして7年活動 平成29年(株)サウンテックスを設立 8年経営の経験がある			
教科書 教材	PROTOOLS11software徹底操作ガイド	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
	配布資料	4					
		時間数					
		120	ミュージックスタッフ科	1年	通年	必修	実習
授業概要	録音制作に必要な音響機器の基本操作、信号の流れ、Pro Toolsの使い方を実習形式で学びます。マイキング、録音、編集、ミキシング、作品制作を通して、制作現場で求められる基礎的な判断力と実践力を養います。						
学習到達目標	録音に必要な機材の役割や信号の流れを説明し、目的に応じたマイキング、録音、編集、ミキシングを実践できる。グループ制作では、企画から仕上げまでの工程を進行し、作品の意図や工夫点を説明できる。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、各課題内容の整理・作業改善をすること。						
評価方法	出席 20%、授業態度10%(実習への参加姿勢、協調性、安全意識、機材の扱い方)、課題提出10%、実技試験60%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	【オリエンテーション】制作現場でのレコーディングエンジニアの役割について			レコーディングエンジニアの仕事の流れを説明し、授業で習得する技術が現場でどのように使われるかをイメージできる			
2	【レコーディングの流れ】集音から録音までの信号の流れと各機材の役割			マイクからPro Toolsに音が録音されるまでの信号の流れを図で説明できる			
3	【マイクロフォンの基礎】マイクロフォンの仕組み・種類・特性			収録する音源に応じてマイクの種類を選び、その理由を説明できる			
4	【マイキングの基礎①】エレキギターの録音方法			マイクの距離や角度による音色の違いを比較し、目的に合ったマイク位置を提案できる			
5	【マイキングの基礎②】ドラムのマルチマイク録音			マイクの距離や角度による音色の違いを比較し、目的に合ったマイク位置を提案できる			
6	【配線の基礎①】機材の接続方法と信号経路			マイク、DI、ミキサー、インターフェースの基本的な接続を安全に行うことができる			
7	【配線の基礎②】パッチベイの構造と接続確認			パッチベイを使った信号の流れを説明し、録音に必要な接続確認ができる			
8	【ミキシングコンソールの基礎①】コンソールの各部名称と機能			入力、ゲイン、フェーダー、パン、AUXなどの役割を説明し、基本操作ができる			
9	【ミキシングコンソールの基礎②】チャンネルモジュールの構成			チャンネルモジュール上の各機能を使い、音量・定位・送り量を調整できる			
10	【Pro Toolsの基礎①】新規セッション作成と初期設定			録音内容に応じたPro Toolsセッションを作成し、基本設定を行うことができる			
11	【Pro Toolsの基礎②】オーディオフォーマットと音質			サンプリングレート、ビット深度などの違いを説明し、用途に応じた設定を選択できる			
12	【Pro Toolsの基礎③】インターフェース設定と内部ルーティング			インターフェースとPro Toolsの入出力設定を確認し、録音できる状態に設定できる			
13	【AUXとCue Box】モニター環境の作成			AUX送信を使って演奏者用のモニターバランスを作成できる			
14	【録音実習】Pro Toolsでの録音手順とロケート操作			録音準備、録音、再生確認、テイク管理までの基本作業を一連の流れで実践できる			
15	前期試験			前期で扱ったマイク、配線、Pro Tools操作、録音手順を実技で実践できる			
16	【ボーカル録音】テイク管理と録音時の注意点			ボーカル録音に必要な準備を行い、複数テイクを整理して管理できる			
17	【パンチン修正】クイックパンチによる録り直し			演奏ミスや歌唱ミスの箇所を指定し、自然な形でパンチン修正ができる			
18	【ミキシングの基礎①】EQによる音色調整			EQの各パラメーターを操作し、音の不要な帯域や強調したい帯域を調整できる			
19	【ミキシングの基礎②】リバーブによる空間表現			リバーブを使い、音の距離感や空間の広がり調整できる			
20	【ミキシングの基礎③】プラグイン活用と音像の整理			音量、定位、EQ、リバーブを組み合わせ、聴きやすいミックスバランスを作ることができる			
21	【作品制作①】グループ制作の企画立案			制作する作品の目的、方向性、必要な録音素材をグループで整理し、制作計画を作成できる			
22	【作品制作②】録音プランの作成			使用するマイク、録音方法、役割分担、作業スケジュールを具体的に計画できる			
23	【作品制作③】素材準備とプリプロ確認			企画内容に必要な音素材や演奏内容を準備し、録音前の確認作業ができる			
24	【作品制作④】プリプロダクション①			試作録音を行い、音質・演奏・構成上の改善点を洗い出すことができる			
25	【作品制作⑤】プリプロダクション②			試作内容をもとに録音方法や作品構成を改善し、本録音に向けた準備ができる			
26	【作品制作⑥】本録音①			企画内容に沿って、マイキング、録音、テイク管理を分担して実践できる			
27	【作品制作⑦】本録音②			必要な素材を確認しながら録音を進め、不足や録り直しが必要な箇所を判断できる			
28	【作品制作⑧】編集・ミックス・仕上げ①			録音素材を整理し、編集、音量調整、EQ、リバーブを使って作品を仕上げるができる			
29	【作品制作⑨】仕上げ・発表・講評			完成作品の意図や工夫した点を説明し、他者の作品に対して具体的な意見を述べるができる			
30	後期試験			年間で習得した録音、編集、ミックス、制作進行の技術を総合的に実践できる			

授業科目名	ProTools実習(1)		担当者名	佐々木 朋義			
			実務経験	ヤマハ音楽振興会講師&AF、ギタリスト、ミュージックコンポーザー			
教科書 教材	・配布資料(PDF、プリント)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
	・ProTools11徹底操作ガイド	2					
		時間数					
		60	ミュージックスタッフ	1年	通年	必修	実習
授業概要	音楽制作ソフト『ProTools』の基本と知識を習得する。						
学習到達目標	ProToolsにおける編集、ミックス、簡易マスタリングといった音楽制作の一連の流れを体験しながら、音声データの扱い方や制作技術の基本を習得する。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、世の中の音楽がどのようにミックス処理されているかを感じながら、楽曲から学び取ることを習慣づける						
評価方法	出席率10%、授業内課題の提出30%、実技試験50%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	自己紹介とProToolsについて。 Macの起動と基本操作。			Macの起動と操作方法を自身で行う事ができる。レポート作成し、Qnapにて提出する事ができる。			
2	Macの起動とProToolsの立ち上げ。			Macの起動を行い、ProTools上で波形のインポートができる。再生、カット、コピー等の編集を操作できる。			
3	波形のインポートと2mix素材の編集『テクノ素材』①			セッションの作成、波形のインポート、ショートカットキーの使用したカット＆コピー。素材を理解しマーカーを打ち込む。			
4	2mix素材の編集『テクノ素材』②			前回打ち込んだマーカー一部で適切にカットし、波形の繋ぎ目に違和感がないように繋ぎ合わせる事ができる。			
5	2mix素材の編集『テクノ素材』③			波形の繋ぎ合わせを完了し、キメを作成。プラグインエフェクトを指示に従い設定する事ができる。			
6	2mix素材の編集『テクノ素材』④			編集作業工程が終了後、バウンスファイルの作成。自身でインポート確認を行い、Qnapにて提出する事ができる。			
7	2mix素材の編集『テクノ素材』レポート⑤			全員提出後、全てのファイルを確認し、自身と他者の作品を比べ、レポートを提出する。			
8	クリックに合わせた2mix編集 ①			2mix素材をProToolsのクリックに合わせ、小節にしたがって、カット、コピー、移動等の編集を適切に行う事ができる。			
9	クリックに合わせた2mix編集 ②			指示に従い波形同士を違和感なく繋ぎ、キメの作成、プラグインエフェクトの設定を行う事ができる。			
10	クリックに合わせた2mix編集 ③			完成素材のバウンスファイルを作成。インポート確認を行い、提出まで終える事ができる。			
11	エフェクター解説講座 ①			ミックスの基本となるリヴァーブ、EQ等のプラグインエフェクターを的確に設定する事ができる。			
12	エフェクター解説講座 ②			リヴァーブ、EQに加え、compressor、Delay等のプラグインエフェクトを効果的に設定する事ができる。			
13	前期試験対策			前期の範囲を理解し、作業を自身の力で完了する事ができる			
14	前期試験						
15	前期試験解説						
16	テンポ検出 ①			素材楽曲のテンポ検出し、Protools内に適切に配置する事ができる。			
17	テンポ検出 ②			テンポ検出した素材をカット編集し、適切に並び替え、また拍子の設定を音楽的に正しく行う事ができる。			
18	声素材の録音 ①			台本を作成し、Protoolsを使用して声のレコーディング行う。			
19	声素材の編集 ②			レコーディングされた素材の編集。カット、レベル補正、ノイズ除去等を丁寧に作業する事ができる。			
20	ラジオ制作 ①			編集が完了した声素材をテンポ検出された楽曲に並べ、レベルの調整等を行う。			
21	ラジオ制作 ②			作品にどのような効果を与えたいかを考え、それに合った編集やエフェクトの設定を行う事ができる。			
22	ラジオ制作 ③			完成した作品のバウンスファイルを作成し、インポート確認し適切に提出する事ができる。			
23	バンドミックス ①			マルチパラ素材を使用したミックス。素材のインポート、各トラックに設定を作業しやすいように完了させる。			
24	バンドミックス ②			各トラックの素材を確認した上で、レベル、パンの設定を音楽的に美しく行える。			
25	バンドミックス ③			楽曲を理解した上で、各トラックのプラグイン設定を行い、楽曲のブラッシュアップを進める。			
26	バンドミックス ④			完成した作品の簡易マスタリング処理を行い、バウンスファイルを作成する。インポート確認し適切に提出する。			
27	バンドミックス レポート ⑤			全員提出後、全てのファイルを確認し、自身と他者の作品を比べ、レポートを提出する。			
28	後期試験対策			通期の範囲を理解し、作業を自身の力で完了する事ができる			
29	後期試験						
30	後期試験解説						

授業科目名	舞台機構対策講座(1)		担当者名	佐々木 朋義			
			実務経験	ヤマハ音楽振興会講師&AF、ギタリスト、ミュージックコンポーザー			
教科書 教材	舞台音響技能検定・過去問題ナビゲーション	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数 60					
			ミュージックスタッフ	1年	通年	必修	講義
授業概要	①舞台機構調整技能士3級対策授業。 ②楽器・作曲家・音楽ジャンルなど、幅広い音楽の知識の習得。 ③実際の試験を想定した練習問題に取り組む。						
学習到達目標	・過去問題集の筆記問題、各要素問題を理解した上で正解を導き出せる。 ・本授業で学んだ知識をプロの現場において運用する事ができる人材の育成。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、普段の生活により音楽や楽器を取り入れて、自身の知識や感性を少しずつ磨く事を常に心がける。						
評価方法	定期試験60%出席率20%、授業態度20%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	イントロダクション			舞台機構授業概要説明。			
2	楽器の知識1『60種類の楽器について』			60種類の楽器名称を画像から判断ができる。			
3	楽器の知識2『わかりづらい楽器ついてその1』			6種類の楽器名称、構造、音を説明する事ができる。			
4	楽器の知識3『わかりづらい楽器ついてその2』			5種類の楽器名称、構造、音を説明する事ができる。			
5	楽器の知識4『エレキ楽器について』			エレキ楽器の構造、使用を説明する事ができる。			
6	楽器の知識5『エレキ楽器が使われる音楽について』			エレキ楽器がメインなポピュラー音楽を紹介できる。			
7	楽器の知識6『鍵盤楽器について』			鍵盤楽器の構造、発音方法を説明ができる。			
8	楽器の知識7『弦楽器について』			弦楽器の構造、発音方法を説明ができる。			
9	楽器の知識8『木管楽器について』			木管楽器の種類、発音、リードの仕組みを説明できる。			
10	楽器の知識9『金管楽器について』			金管楽器の種類、発音、リードの仕組みを説明できる。			
11	楽器の知識10『60種類の楽器総括と補足』			60種類楽器の小テスト。打楽器の種類を説明できる。			
12	リスニング問題			要素問題を体験し、どう変化したか答える事ができる。			
13	前期試験対策			前期授業範囲を理解し、前期試験に備える。			
14	前期試験						
15	前期試験解説						
16	過去問題集と要素問題1			要素問題『2Mix変化』の選択肢を答える事ができる。			
17	過去問題集と要素問題2			要素問題『2Mix変化』を聞き分けて答える事ができる。			
18	過去問題集と要素問題3			要素問題『2Mix変化』を的確に答える事ができる。			
19	過去問題集と要素問題4			要素問題『パラ音源』の選択肢を答える事ができる。			
20	過去問題集と要素問題5			要素問題『パラ音源』を聞き分けて答える事ができる。			
21	過去問題集と要素問題6			要素問題『パラ音源』を的確に答える事ができる。			
22	過去問題集と要素問題7			要素問題『単発音源』を答える事ができる。			
23	過去問題集と要素問題8			要素問題『単発音源』をよりの確に答える事ができる。			
24	楽器の知識11『民族楽器について1』			民族楽器の歴史、発音の仕組みを説明できる。			
25	楽器の知識12『民族楽器について2』			民族楽器の歴史、発音の仕組みを説明できる。			
26	曲と作曲家とジャンル1『クラシック音楽』			クラシック音楽の歴史、作曲家、主な使用楽器を説明する事ができる。			
27	曲と作曲家とジャンル2『現代の音楽シーンにおける音楽』			ポピュラー音楽、映画、アニメ、ゲーム、CMなど、話題となる事が多い音楽を解説する事ができる。			
28	後期試験の説明			後期授業範囲を理解し、前期試験に備える。			
29	後期試験						
30	後期試験解説			1年間の総まとめとして、来年の本試験に備える。			

授業科目名	コンサート実践(1)		担当者名	比留川純夫			
			実務経験	1985年音響会社(有限会社音屋経営) 業務内容(レコーディング、PA)			
教科書		単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	ミュージックスタッフ科	1年	通年	必修	講義
60							
授業概要	職業実践専門課程の一環として企業と連携しコンサートやイベントの現場へ参加し、現場でどのように仕事をしていくかを学ぶ。						
学習到達目標	コンサートやイベントの現場でアシスタントレベルまで到達する						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に 行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、現場で想定される回線表や機材リスト の事前照合を行い、期間を通じてライブ・イベント運営の効率化に向けたマニュアルの更新と振り返りを継続すること。						
評価方法	現場実習での企業からの評価60%、出席率20%、授業態度20%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	ミーティング			コンサート及びイベントスタッフへの心構え			
2	現場実習への参加			コンサートやイベントのスタッフとして現場で問題なく働くことが出来る			
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14	現場実習で学んだことをレポート提出						
15							
16	現場実習への参加			コンサートやイベントのスタッフとして現場で問題なく働くことが出来る			
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29	現場実習で学んだことをレポート提出						
30							

授業科目名	キャリアデザイン(2)		担当者名	石田 拓			
			実務経験	舞台音響の会社で3年勤務			
教科書	・専門学校生のための 就職内定基本テキスト	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数 60					
授業概要	卒業年度生に対し、働くことへの理解を深め、企業から内定をもらうためのビジネスマナーを身につける。						
学習到達目標	就職決定とビジネスマナーの習得						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、就職活動のための情報収集を継続して行うこと。						
評価方法	出席率20%、授業態度20%、レポート提出60%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	働くとは・・・			働く事への理解と動機づけ			
2	履歴書の記載 ・ 個人面談(1)			働く事への理解と動機づけ			
3	履歴書の記載 ・ 個人面談(2)			働く事への理解と動機づけ			
4	履歴書の記載 ・ 個人面談(3)			履歴書の完成			
5	自己分析① 過去を振り返り現在の時間を知る			履歴書の完成			
6	自己分析② 将来の自分を考える			履歴書の完成			
7	自己分析③ 自分の適性を知る			分析シートの提出			
8	求人検索＋面接練習(1)			分析シートの提出			
9	求人検索＋面接練習(2)			分析シートの提出			
10	求人検索＋面接練習(3)			面接の対応力			
11	メール、文書、応募書類の記載方法 電話のかけ方(1)			個人面談			
12	メール、文書、応募書類の記載方法 電話のかけ方(2)			個人面談			
13	メール、文書、応募書類の記載方法 電話のかけ方(3)			個人面談			
14	メール、文書、応募書類の記載方法 電話のかけ方(4)			個人面談			
15	求人への応募 (内定者は入社準備、新生活の準備等々)(1)			個人面談			
16	求人への応募 (内定者は入社準備、新生活の準備等々)(2)			個人面談			
17	求人への応募 (内定者は入社準備、新生活の準備等々)(3)			個人面談			
18	求人への応募 (内定者は入社準備、新生活の準備等々)(4)			個人面談			
19	求人への応募 (内定者は入社準備、新生活の準備等々)(5)			個人面談			
20	求人への応募 (内定者は入社準備、新生活の準備等々)(6)			個人面談			
21	求人への応募 (内定者は入社準備、新生活の準備等々)(7)			個人面談			
22	求人への応募 (内定者は入社準備、新生活の準備等々)(8)			個人面談			
23	求人への応募 (内定者は入社準備、新生活の準備等々)(9)			個人面談			
24	求人への応募 (内定者は入社準備、新生活の準備等々)(10)			個人面談			
25	求人への応募 (内定者は入社準備、新生活の準備等々)(11)			個人面談			
26	求人への応募 (内定者は入社準備、新生活の準備等々)(12)			個人面談			
27	求人への応募 (内定者は入社準備、新生活の準備等々)(13)			個人面談			
28	求人への応募 (内定者は入社準備、新生活の準備等々)(14)			個人面談			
29	求人への応募 (内定者は入社準備、新生活の準備等々)(15)			個人面談			
30	求人への応募 (内定者は入社準備、新生活の準備等々)(16)			個人面談			

授業科目名	舞台機構調整技能講座(2)		担当者名	内ヶ崎雅人			
			実務経験	ヤマハ東北地区A&Rディレクター、作編曲等、Mixエンジニアなど			
教科書	・舞台音響技能検定・過去問題ナビゲーション 舞台機構調整技能士3級 ・配布資料(プリント)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		8					
		時間数 120					
			ミュージックスタッフ科	2年	前期	必修	講義・実習
授業概要	①要素試験を対象の授業 VTRや色々な音源を使い、実際の試験に沿った授業を行い、冷静に音を聞き分ける力を持たせる。 ②実技試験・作業試験受験対策 機材の正しい操作方法を学び、操作する技術を習得する。						
学習到達目標	国家資格 舞台機構調整 音響調整 3級 の 取得						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、授業後にクラウドデータベース上に資料、音声データなどを保存していくので、過去問の間違った問題やリスニングの問題を数回確認して理解を深めておくこと。						
評価方法	出席率10%、授業ごとのテストの成績30%、期末試験60%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	舞台機構調整とは			どのような資格で、なんのプラスになるか			
2	試験はどのような内容なのか			範囲を知る			
3	楽器1			木管楽器・金管楽器・弦楽器・打楽器			
4	楽器2			音の出る仕組み。シングルリード等			
5	楽器3・編成・ジャンルと楽器			オーケストラ・フルバンド・地方等			
6	楽器4・構造・分類			不思議な楽器と形状の不思議			
7	楽器5・国と楽器			音色の違いと構造・演奏方法			
8	音の変化とバランス			音量の変化や音色の違い・音の正しいを知る			
9	作曲者を知る (曲名と作曲者名)①			クラシック・童謡・等範囲が広いため、			
10	作曲者を知る (曲名と作曲者名)②			世界で有名な作曲者を学ぶ			
11	チェック 実際の試験のように選択肢より答えを選び点数を知る。			改めて楽器の音と、映像と名前を確認する			
12	音のバランス			音楽を聴き、標準音と問題音の違いを当てる			
13	音の変化			音質・移送・定位・雑音等に気がつくか			
14	総合的な試験1			合格点が取れているか			
15	仕上げ 要素試験と筆記試験(どれだけでできているか)			国家試験			

授業科目名	舞台演出実習 A		担当者名	前沢健二			
			実務経験	ラジオラジオ番組・イベント制作に携わり30年の経験			
教科書 教材	・配布資料(プリント)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数					
		120	ミュージックスタッフ科	2年	通年	必修	講義・実習
授業概要	イベントの一連のプロセス(企画立案、コンセプト構築、資料作成、プレゼンテーション)をチームでの共同作業を通して実践します。演出家の視点から、アイデアを具体化するための情報収集、タイトル検討、そしてスタッフ・キャストに意図を伝えるための論理的な資料作成ノウハウを習得します。						
学習到達目標	・作品の世界観を象徴するタイトルやキャッチコピーを考案し、第三者の興味を引く提案ができる。 ・チーム内での議論を通じて、異なる視点や意見を柔軟に取り入れ、一つのビジョンに統合・集約できる。 ・作成した企画書に基づき、自身の演出プランの魅力を効果的にプレゼンテーションできる。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、企画の背景となる歴史、社会情勢、先行作品の調査、裏付ける事実関係の確認を行うこと。現在の演劇界やエンターテインメント業界でどのような企画が求められているか、ニュースや批評に触れること。						
評価方法	出席率30%、授業態度10%、課題レポート20%、期末試験40%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	概要説明 企画書作成①			舞台企画書の構成要素を理解し、作成に必要な項目を列挙できる			
2							
3	企画書作成②			上演の目的を明確にし、演出意図(ステートメント)を文章化できる			
4							
5	企画書作成③			作品の魅力を象徴するタイトルとキャッチコピーを考案できる			
6							
7	企画書作成④			企画の裏付けとなる時代背景や資料を収集し、情報を整理できる			
8							
9	企画書作成⑤			チーム内で意見交換を行い、多様なアイデアを1つの案に統合できる			
10							
11	企画書作成⑥			視覚的イメージ(画像や配色)を用いて、作品の世界観を表現できる			
12							
13	企画書作成⑦			読み手を意識した、論理的で視覚的に分かりやすい資料レイアウトができる			
14							
15	企画書発表			企画の核となる部分をプレゼンし、質疑応答を通して課題を抽出できる			
16	概要説明 企画書作成①			舞台企画書の構成要素を理解し、作成に必要な項目を列挙できる			
17							
18	企画書作成②			上演の目的を明確にし、演出意図(ステートメント)を文章化できる			
19							
20	企画書作成③			作品の魅力を象徴するタイトルとキャッチコピーを考案できる			
21							
22	企画書作成④			企画の裏付けとなる時代背景や資料を収集し、情報を整理できる			
23							
24	企画書作成⑤			チーム内で意見交換を行い、多様なアイデアを1つの案に統合できる			
25							
26	企画書作成⑥			視覚的イメージ(画像や配色)を用いて、作品の世界観を表現できる			
27							
28	企画書作成⑦			読み手を意識した、論理的で視覚的に分かりやすい資料レイアウトができる			
29							
30	企画書発表			企画の核となる部分をプレゼンし、質疑応答を通して課題を抽出できる			

授業科目名	コンサート実践(2)		担当者名	比留川純夫			
			実務経験	1985年音響会社(有限会社音屋経営) 業務内容(レコーディング、PA)			
教科書		単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		2					
		時間数	ミュージックスタッフ科	1年	通年	必修	講義
60							
授業概要	職業実践専門課程の一環として企業と連携しコンサートやイベントの現場へ参加し、現場でどのように仕事をしていくかを学ぶ。						
学習到達目標	コンサートやイベントの現場でアシスタントレベルまで到達する						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、現場で想定される回線表や機材リストの事前照合を行い、期間を通じてライブ・イベント運営の効率化に向けたマニュアルの更新と振り返りを継続すること。						
評価方法	現場実習での企業からの評価60%、出席率20%、授業態度20%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	ミーティング			コンサート及びイベントスタッフへの心構え			
2	現場実習への参加			コンサートやイベントのスタッフとして現場で問題なく働くことが出来る			
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14	現場実習で学んだことをレポート提出						
15							
16	現場実習への参加			コンサートやイベントのスタッフとして現場で問題なく働くことが出来る			
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29	現場実習で学んだことをレポート提出						
30							

授業科目名	エンターテインメントビジネス		担当者名	佐々木 憲司				
			実務経験	ソニーミュージックにて長年音楽業界に携わる				
教科書 教材	音楽著作権ビジネスのすべて	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法	
		4		ミュージックスタッフ科	1年	通年	必修	講義
		時間数 60						
授業概要	業界データや新聞記事、プレスリリースを教材として活用し、動向をリアルタイムで把握する「アウトプット・分析型」の授業を展開します。後期は、テキストを中心に、ビジネスモデル、権利関係、プロモーション戦略などの基礎理論を習得する「知識定着型」の講義を行います。							
学習到達目標	業界統計やニュースから、市場の動向を客観的に読み取れるようになる。 エンターテインメント業界の主要なビジネスモデル(収益構造)を理解する。							
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、毎週、エンタテインメント業界に関するニュースを1つ以上チェックし、授業内の議論やワークに活用できるよう準備すること。また、次の講義範囲のテキストを通読し、不明な用語を抽出しておくこと。							
評価方法	出席率(40%)、課題・レポート(30%)、期末試験(30%)							
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など				
1	自己紹介、講義内容説明、アンケート等			業界の全体像と本講義の進め方				
2	CDの中味、音楽著作権の常識テスト			基礎知識の確認、定着させる				
3	TV視聴率、マスコミの系列、業界規模等			TV業界についての基礎知識を定着させて、説明できる				
4	映画業界、映画白書			映画業界の現状を言語化できる				
5	広告業界、代理店ビジネスと白書			広告業とCMについてのビジネスを言語化できる				
6	アーティストの肖像権			肖像権に問する基礎知識を説明できる				
7	プロダクション・ビジネス			マネージメント業について説明できる				
8	音楽出版社ビジネス			出版業者のビジネスについて説明できる				
9	マーチャндаイジング・ビジネス			グッズビジネス、ファンクラブに関する知識を得る				
10	レコード会社の仕事、プロデューサーの仕事			プロデューサーの役割と仕事について言語化できる				
11	再販制度、リクープ・ライン等の中味			再販CDと損益分岐について言語化できる				
12	宣伝予算、新人アーティストの宣伝プラン			新人発掘の仕事について言語化できる				
13	著作権、印税、JASRAC問題			著作権や税金に関して実例をもとにを分析できる				
14	返品制度、景表法、タイアップ等			タイアップによる広報効果について分析できる				
15	アニメの歴史、映画製作/前期末試験			アニメの歴史、映画製作について分析できる/業界の現状分析レポート作成				
16	放送と音楽著作権			放送使用料、放送用録音使用料を分析できる				
17	レコード製作者と二次使用料			講義で示された二次使用料の法律を、最新のニュースやデータに照らし合わせて解説できる				
18	レコード製作者と二次使用料							
19	CMと著作権			CMに利用する際の権利を、最新のニュースやデータに照らし合わせて解説できる				
20	ゲーム音楽と著作権			ゲームソフトにおける権利を、最新のニュースやデータに照らし合わせて解説できる				
21	カラオケと著作権			カラオケの楽曲データの権利を、最新のニュースやデータに照らし合わせて解説できる				
22	ライブ演奏と著作権			コンサートホール・ライブハウスでの演奏権使用料を分析できる				
23	音楽配信と著作権1			音楽配信にかかる権利、サブスクリプション・サービス、動画配信サービスを説明できる				
24	音楽配信と著作権1							
25	音楽配信と著作権2							
26	音楽配信と著作権3							
27	パブリシティ権1			パブリシティ権を説明できる、過去に問題となった実例を元にパブリシティ権について分析できる				
28	パブリシティ権2							
29	パブリシティ権2							
30	後期試験			用語レポート作成				

授業科目名	コンサートプロデュース実習		担当者名	関口修			
			実務経験	舞台監督・イベント制作に携わり35年の経験がある。			
教科書 教材	・配布資料(プリント、データ) ・資料映像	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		11					
		時間数					
		330					
		ミュージックスタッフ科	2年	通年	必修	講義・演習	
授業概要	イベントに必要な制作のプロセスや資料作成、運営のノウハウを実践する。 運営の組織づくり、会議の進め方、企画書やスケジュール、台本作成を行う。 卒業制作のD-POPにおいては、企画立案、全体の統括、演出、運営を行う。						
学習到達目標	イベントコンセプトにもとづき、自分たちが目指した内容に到達できるよう 他スタッフとお互いに理解しあい学園祭及び卒業制作の成功を目指す。						
時間外に 必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、イベントにおける学校関係者、外部の出演者との連絡が必要となるため、講義以外の時間にも作業が求められるため、社会人としての対応を常に心掛け、運営関係者との密な情報共有を行う。						
評価方法	出席率30%、イベント運営における貢献度50%、期末試験20%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	卒業制作イベントに必要な作業の確認と年間のスケジュール確認			自分たちの必要な作業を確認し、ロードマップを作成する事で計画的に運営を行う。			
2	卒業制作 出演者演出作業			様々な情報を基に、出演者を選定する作業を行う。 条件や限られた予算の中で実現可能な出演者を選ぶ。			
3							
4	卒業制作 実務における役割分担／出演者調整			卒業制作という2年間の集大成のイベントにおいて自分が担う役割を見つける。併せて出演交渉を行い、マネージメント作業を実践。			
5	卒業制作 コンセプト会議／出演者調整			卒業制作のタイトル、およびコンセプトを決定。成功への目標を掲げ、催事の方向性を決める。併せて出演交渉を行い、マネージメント作業を実践。			
6	卒業制作 企画書作成 企画概要・基本図面・スケジュール概要			企画書を作成し学校及び学生へ提案。 基本的な図面やスケジュールを作成し提案。 併せて出演交渉を行い、マネージメント作業を実践。			
7							
8							
9	卒業制作 運営資料作成作業／出演者調整作業			音響・照明・舞台美術・録音・撮影に必要な資料を作成。 出演者に提示する条件などをまとめた書類作成。 併せて出演交渉を行い、マネージメント作業を実践。			
10							
11							
12	楽器(ドラムセット)設置実習／卒業制作 出演者決定			出演者を決定し企画書を完成させる。 楽器の組立を練習し、だれもが可能な状態にする。			
13	学園祭 ステージ運営対策			学園祭のステージイベントにむけた企画を立案する。 各関係者との運営会議を行い意見交換。 スケジュールを管理し出演者の募集と決定。 台本を作成し、運営シミュレーションを実施。			
14	運営会議・チーフ会議						
15	スケジュール管理・台本作成						
16	スタッフ打合せ・出演者打合せ						
17	卒業制作D-POP2026 運営制作作業			出演者の情報を各セクションと共有し演出プランを確定 詳細なスケジュールを再調整。 ロゴやポスターデザインを決定し広報活動開始。 台本修正作業 スタッフ及び出演者用のマニュアルの完成 週に1度チーフ会議を開催し、それぞれの情報を共有。 来場者の対応を対策。 会場との打合せ実施。			
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27	卒業制作D-POP2026 実施報告書作成			開催の様様を動画などで確認しながら コンセプト通りに達成できたのか検証する。 運営実施の実績を実施報告書としてまとめ提出。			
28							
29							
30	学年末テスト			2年間の講義と実習を振り返り実務能力を再確認し 現場において企画運営が実践できる。			

授業科目名	プロモーション演習		担当者名	田村康晴			
			実務経験	株式会社東北記録映画社20年以上実務経験			
教科書	・サンプル映像素材	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
	・サンプル音源等	8					
	・PremierePro&AfterEffects	時間数					
		120					
ミュージックスタッフ科	2年	通年	必修	講義・実習			
授業概要	企画・構成・脚本・絵コンテ、映像・写真を使用した撮影、及び編集実習を通し、映像制作全般を学ぶ。インターネット動画、CM制作等の制作実習を中心に実施する。						
学習到達目標	映像制作の基盤となる「発想力」、映像撮影・編集の基本技術力を習得する。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、作業効率化に向けたマニュアルの更新と振り返りを継続すること。						
評価方法	出席率10%、授業意欲10%、課題提出30%、期末試験50%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	企画・構成・脚本・絵コンテについて			構成を考え、絵コンテを描くことが出来る			
2	絵コンテからの映像編集実習①			コンテを元にpremiereでの実践編集が出来る			
3	絵コンテからの映像編集実習②			コンテを元にpremiereでの実践編集が出来る			
4	プレゼン・作品視聴会			自分の考えを述べ、試写会にて発表する			
5	ライブ編集実習① カメラ構図について			ライブ編集で、構図を理解し編集できる			
6	ライブ編集実習① カット割り			ライブ編集で、カット割りを理解し編集できる			
7	ライブ編集実習① エフェクト			ライブ編集で、エフェクト効果を生かし編集できる			
8	ライブ編集実習① 歌詞打ち込み			ライブ編集で、歌詞を打ち込むことが出来る			
9	ライブ編集実習① 試写会			自分の考えを述べ、試写会にて発表する			
10	CM用写真撮影実習 & 講義			ピント・露出・構図を理解し撮影できる			
11	CM用写真撮影実習 & 講義 一眼レフを使用した撮影実習			写真撮影で実践練習			
12	CM用編集実習 撮影素材・フォトショップの活用			写真素材を使用しPhotoshopで加工が出来る			
13	CM用編集実習 写真素材を使用した編集方法			写真素材を使用し映像編集が出来る			
14	試写会			自分の考えを述べ、試写会にて発表する			
15	前期テスト			実技テスト			
16	AfterEffects実習&イラストレーター① アニメの動かし方			AfterEffectsで製図を動かすことが出来る			
17	AfterEffects実習&イラストレーター② 動画のエフェクトのつけ方			AfterEffectsでアニメーションが制作できる			
18	AfterEffects実習&イラストレーター③ 実践1			イラストレーターでキャラクターを描ける			
19	AfterEffects実習&イラストレーター④ 実践2			AfterEffectsでキャラを動かす事ができる			
20	映画予告オープニング映像制作 実際の映画と同じものを作る1			AfterEffectsで実映画と同じロゴを作る			
21	映画予告オープニング映像制作 実際の映画と同じものを作る2			AfterEffectsで実映画とアニメを作る			
22	映画予告オープニング映像制作 実際の映画と同じものを作る3			AfterEffectsで実映画と効果を作る			
23	映画予告オープニング映像制作 実際の映画と同じものを作る4			AfterEffectsでストーリーを完成できる			
24	試写会			自分の考えを述べ、試写会にて発表する			
25	ライブ編集実習②			卒業生撮影のライブ編集実習②			
26	ライブ編集実習②			卒業生撮影のライブ編集実習②			
27	ライブ編集実習②			卒業生撮影のライブ編集実習②			
28	ライブ編集実習②			卒業生撮影のライブ編集実習②			
29	試写会			自分の考えを述べ、試写会にて発表する			
30	後期テスト			実技テスト			

授業科目名	舞台演出実習 B		担当者名	柴成美			
			実務経験	現場経験15年以上			
教科書 教材	舞台・テレビジョン照明	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	ミュージックスタッフ	2年	通年	必修	講義・演習
		120					
授業概要	照明概論の内容を更に深掘した応用の採用 ライトの構造・製造会社の特性を実習を通して実施。実践に挑む予習を行う 舞台装置を意識した明かり・空間創りの課題演出の企画製作						
学習到達目標	文化芸術を取り巻く環境と歴史に触れる機会を設ける 作品のイメージを自らの探究心を持って実行し美演と鑑賞を目指す 観客を楽しませる表現者また芸術家への意識の向上。作品創造への結果・成果の促進						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、「何の・誰の」「ため」の創造性・舞台演出なのかを意識することが重要である。具体的には日頃より様々なイベントを調べ、参加・鑑賞・観劇し、「意見する」「記録に残す」舞台に携わる団体・クレジットに目を通し、より良い作品に出会うこと						
評価方法	前期:筆記50点・実技50点 後期:筆記50点・課題演出40点・平常点(授業態度)10点						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	講義内容についての説明・課題演出「自己表現」			内容の理解と探究・自己表現分析			
2	文化・劇場に関する法律・自己表現発表会			文化芸術への興味・クラス交流と構築			
3	劇場の種類と成り立ち・運営制度について			管理制度の概要と課題への探究			
4							
5	照明器具の製造・メーカーについて			器具の構造を調べ、探究性の向上を図る			
6	公演に携わる者たち・課題「機材リスト作成」			部署ごとの役割を「知ること」を目的として実施			
7							
8							
9							
10	課題演出・企画・デザイン			グループワーク・個人の尊重と協力性を図る			
11							
12	課題演出・プランニング						
13							
14	前期末実技試験			結果と成果・自己分析			
15	前期末筆記試験						
16	上演芸術の起源と歴史			日本・海外文化の成立への関心度向上を目指す			
17							
18	ヨーロッパ由来の上演芸術			最古の演劇・バレエについて 「知る」ことを目的として実施			
19							
20	日本古来の上演芸術			伝統芸能の多様化・継承・育成について			
21				文化に興味を持ち、働く環境への意欲促進			
22	舞台を演出するまでの流れ			芸術家とサポートチームの関係性			
23				本番までの下見と作品創りに触れる			
24	課題演出①			企画・製作を行う			
25							
26	課題演出②			デザインとプランを立てる			
27							
28	課題演出③			実験と検証・完成発表を目指す			
29							
30	後期末筆記試験			結果と成果・自己分析			

授業科目名	PA・SR実習(2)		担当者名	石田 拓			
			実務経験	舞台音響の会社で3年勤務			
教科書 教材		単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		14					
		時間数					
		420					
			ミュージックスタッフ科	2年	通年	必修	実習
授業概要	PA実習・コンサート音響						
学習到達目標	* PAシステムの基本構造を理解する* マイク・ミキサー・スピーカーを適切に扱える* 小規模ライブの音響オペレーションを実施できる* バンド・ボーカルの基本ミックスができる* 現場での安全管理とトラブル対応ができる						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、コンサート鑑賞等を行うこと。						
評価方法	・出席授業態度20%・実習課題20%・最終実技試験60%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	AUX操作			AUX送信を適切に設定できる			
2	モニターミックス			演者向けモニターを調整できる			
3	PAN・GROUP			PANとグループ操作を理解できる			
4	コンプレッサー基礎			コンプレッサーの基本操作ができる			
5	コンプレッサー応用			音圧コントロールを実践できる			
6	ゲート基礎			ゲート処理を実践できる			
7	リバーブ			リバーブ効果を適切に使用できる			
8	ディレイ			ディレイ効果を適切に使用できる			
9	ハウリング対策			ハウリング原因を特定し対策できる			
10	スピーカー基礎			スピーカー種類を説明できる			
11	パワーアンプ			アンプ接続を安全に行える			
12	クロスオーバー			帯域分割の基本を理解できる			
13	モニタースピーカー			モニター配置を適切に行える			
14	ラインアレイ基礎			ラインアレイの基本概念を理解できる			
15	システム配線実習			PAシステムを構築できる			
16	デジタル卓基礎			デジタル卓を操作できる			
17	レイヤー操作			レイヤー切替を適切に行える			
18	デジタルパッチ			デジタルパッチ設定を行える			
19	シーンメモリー			シーン保存・呼出を行える			
20	DCA・Mute Group			DCA操作を実践できる			
21	内蔵エフェクト			デジタル卓エフェクトを運用できる			
22	ネットワーク音響基礎			Dante等の基礎概念を理解できる			
23	ライブ仕込み実習			ライブ仕込みを安全に行える			
24	回線チェック			回線確認作業を実施できる			
25	サウンドチェック			効率的なリハーサル進行ができる			
26	FOHミックス実習①			基本的なバンドミックスを行える			
27	FOHミックス実習②			楽曲に応じたミックス調整ができる			
28	転換・撤収実習			転換・撤収を安全に行える			
29	ライブ本番実習			ライブ本番オペレーションを実践できる			
30	総括・最終試験			PAシステム構築と運用を総合的に実践できる			

授業科目名	音響概論(2)		担当者名	石田 拓			
			実務経験	舞台音響の会社で3年勤務			
教科書 教材		単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	ミュージックスタッフ科	2年	通年	必修選択	講義
		120					
授業概要	コンサート・ライブイベントにおける音響技術の基礎から実践的知識までを学ぶ。PAシステム、音の物理、マイク・スピーカーの基礎、現場運営、安全管理、音楽ジャンルごとの音作りなど、コンサート音響に必要な総合知識を体系的に理解することを目的とする。						
学習到達目標	音響の基本原理を理解する・PAシステムの構成と役割を説明できる・マイク、ミキサー・スピーカー等の機材特性を理解する。コンサート現場の流れとスタッフ業務を把握する・音響トラブルへの基本的対応方法を理解する・音楽ジャンルや会場規模に応じた音響設計の考え方を学ぶ。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、電気音響概論の復習を行う。						
評価方法	出席・授業参加：20%、小レポート・課題：20%、期末レポートまたは筆記試験：60%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	授業概要、コンサート音響の歴史、PAの役割、音響スタッフの職種			PAの基本的役割を理解する			
2	音の基礎① 音の正体			音が波であることを説明できる周波数と音程の関係を理解する、可聴域の範囲を説明できる			
3	音の基礎② 音の性質			残響が音響に与える影響を理解する			
4	電気音響の基礎			アナログとデジタル			
5	マイクロフォン① 種類と構造			主要なマイクの種類を説明できる			
6	マイクロフォン② 実践的使用法			基本的なマイキング方法を説明できる、ハウリング発生原因を理解する			
7	ミキサー① 基本構造			ミキサーの基本構造を説明できる			
8	ミキサー② デジタルミキサー			デジタルミキサーの特徴を説明できる			
9	スピーカーシステム①			スピーカーの種類を説明できる			
10	スピーカーシステム②			指向性制御の考え方を理解する			
11	パワーアンプと信号処理			クロスオーバー、DSP			
12	ケーブル・コネクタ			適切な配線方法を理解する			
13	ワイヤレスシステム			ワイヤレス機器の基本構造を理解する			
14	モニター音響			フロアモニター、フィル			
15	中間まとめ・確認			前半内容を総合的に整理できる			
16	コンサート制作の流れ			各工程の目的を理解する			
17	音響スタッフの役割			FOH,FB、ステージ			
18	ステージプランと音響資料			基本的な音響資料を読める			
19	ライブハウス音響			ライブハウス特有の音響を理解する			
20	ホール・アリーナ音響			ディレイシステムを説明できる			
21	野外コンサート音響			天候リスクを理解する			
22	音楽ジャンルと音作り			ジャンルごとの音作りの違いを理解する			
23	エフェクターと音作り			基本的なエフェクトを説明できる			
24	レコーディングとPAの違い			配信音響の特徴を理解する			
25	配信・ハイブリッドイベント音響			配信時の注意点を理解する			
26	音響トラブル事例研究			トラブル予防の考え方を理解する			
27	安全管理と法令			現場安全の重要性を理解する			
28	最新音響技術			DANTE,イマーシブ			
29	現場コミュニケーション			現場コミュニケーションの重要性を理解する			
30	総括・期末課題			コンサート音響の全体像を理解する			

授業科目名	JAPRS SR検定対策		担当者名	比留川純夫			
			実務経験	1976音響会社勤務～1985年音響会社(有限会社音屋設立)、業務内容(レコーディング、PA)			
教科書	S.R概論 最新年度版	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
	日本音楽スタジオ協会発行	4					
	問題集 技術資料集	時間数	ミュージックスタッフ科	2年	前期	必修	講義・実習
	プリント配布	60					
授業概要	JAPRS(日本音楽スタジオ協会)が実施する「サウンドレコーディング技術認定試験」の高レベル認定証の交付を目指す。						
学習到達目標	音楽業界の制作現場スタッフとして必要な知識を習得する。特にレコーディングスタジオでは当検定のランクを重視している現状もあり全員B以上、レコーディング専攻クラスはAを目指しそれを目標とする。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。 専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、過去問題を継続的に解くこと。						
評価方法	サウンドレコーディング技術認定試験80%、出席率20%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	サウンドレコーディング技術概論 1章			音響の基礎を理解する。			
2	サウンドレコーディング技術概論 2章			音響物理の基礎理解する。			
3	サウンドレコーディング技術概論 3章			電気音響の基礎を理解する。			
4	技術資料集			電気の基礎知識を修得する。			
5	サウンドレコーディング技術概論 4章			スタジオシステム 室内音響 について理解する。			
6	サウンドレコーディング技術概論 4章			音響設計ガイドブックを参考にスタジオ全般を理解する。			
7	サウンドレコーディング技術概論 4章			スタジオシステム 信号伝送について理解する。			
8	サウンドレコーディング技術概論 4章			マイクロフォンについて理解する。			
9	サウンドレコーディング技術概論 4章			ミキシングコンソールについて理解する。			
10	サウンドレコーディング技術概論 4章			エフェクターについて理解する。			
11	サウンドレコーディング技術概論 4章			テープレコーダーについて理解 修得する。			
12	サウンドレコーディング技術概論 4章			モニタースピーカーについて理解 修得する。			
13	サウンドレコーディング技術概論 4章			規格表 スペック表の読み方を理解する。			
14	技術資料集			定番の音響機器について知る。			
15	前期末試験						

授業科目名	JAPRS PT検定対策		担当者名	比留川純夫			
			実務経験	1976音響会社勤務～1985年音響会社(有限会社音屋設立)、業務内容(レコーディング、PA)			
教科書	ProTools技術認定問題集最新 日本音楽スタジオ協会発行 問題集 技術資料集 プリント配布	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数 60	ミュージックスタッフ科	2年	前期	必修	講義・実習
授業概要	JAPRS(日本音楽スタジオ協会)が実施する「ProTools技術認定試験」高レベル認定証の交付を目指す。						
学習到達目標	音楽業界の制作現場スタッフとして必要な知識を習得する。特にレコーディングスタジオでは当検定のランクを重視している現状もあり全員B以上、レコーディング専攻クラスはAを目指しそれ为目标とする。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。 専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、過去問題を継続的に解くこと。						
評価方法	ProTools技術認定試験80%、出席率20%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	Protools 概要			ProTools誕生に至るまでの経緯や基本動作について知る。			
2	セッションとトラック			大元となる『セッション』とはなにか、音データを立ち上げる『トラック』とはなにかを理解する。			
3	録音			最大録音数や録音作業時の注意点を知る。			
4	編集			集時の表示から読み取る内容や操作方法を修得する。			
5	ミキシングの基礎			ミックス時のショートカットや入力出力の基本を理解する。			
6	プラグイン			音に付加するエフェクト効果を司るプラグインの種類を知る。			
7	オートメーション			時間軸に合わせ自動変化するオートメーションの基本を理解する。			
8	ミックスダウン			編集後の最終工程に関する注意事項を理解する。			
9	シンク・MIDI・ファイル管理			外部機器とのシンクや行う時の注意点を認識する。			
10	セッションデータのインポート／エクスポート			インポート＝取り込み。エクスポート＝掃出し。それぞれの基本的な考え方を理解する。			
11	ファイルの管理と互換性			ファイル管理の注意点を修得する。			
12	MIDI			MIDIの基本を理解する。			
13	用語集			スタジオ用語を修得する。			
14	過去問 2021年～2024年			最終チェックを行い理解不足な点を洗い出す。			
15	前期末試験						

授業科目名	レコーディング実習(2)		担当者名	比留川純夫			
			実務経験	1976音響会社勤務～1985年音響会社(有限会社音屋設立)、業務内容(レコーディング、PA)			
教科書	プリント配布	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		14					
		時間数 420					
			ミュージックスタッフ科	2年	通年	必修	講義・実習
授業概要	レコーディングスタジオ、映像制作、M.Aスタジオ等マルチメディアを取り巻く環境は今デジタルメディアに対応する能力が求められる。動画制作及び音楽配信等の先進DVD-Audio,SACD,音声画像圧縮展開等、様々なデジタル技術を理解しその対応を習得する。						
学習到達目標	先進の録音機器のオペレーションする技術、動画配信アプリのオペレート、スタジオにおけるコミュニケーション能力、音楽知識、そして音楽とテクノロジーの融合の時代に働く「人としての能力」を身につける。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、各回のレコーディング素材に対する波形編集やノイズ処理を習慣化し、楽曲の聴感上のクオリティを高めるためのミキシング作業を繰り返し行うこと。						
評価方法	出席率、ProTools操作技術、コミュニケーション能力、積極性、作品クオリティー、試験の結果で評価						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	電源 機材概要 ブース について			現代音楽と電気の関係性、録音機材、ブース、以上3点について理解を深め、実習への取り組みかたを知る。			
2	作業環境整備			あらゆるシーンを想定してフォーマットを作りスタジオ業務の効率化を図るため制作物について理解し、言動を的確に判断できるようになる。			
3	楽器の知識 マイクの特性 マイクング-1			pf,AG,EB,GA以上4点の収録方法を学びマイク選定、マイキングを的確に判断できるようになる。			
4	楽器の知識 マイクの特性 マイクング-2			Dr,V0,per,cho(複数人一発録音)以上4点の収録方法を学びマイク選定、マイキングを早的確に判断できるようになる。			
5	制作側クライアントとの打ち合わせシュミレーション-1			クライアント、アーティスト、が目指してるものを把握し制作者の一員であることの自覚を身につける。			
6	制作側クライアントとの打ち合わせシュミレーション-2			スケジュールを含めマイク選定等積極的に提言できるようになる。			
7	ProTools基本操作1			制作物により適正なフォーマットでのセッション作成の判断ができるようになる。			
8	ProTools基本操作2			録音→再生→修正 の手順をストレスなくオペレートできるようになる。			
9	ProTools応用編1			録音→再生→高度な修正→波形編集 の手順をストレスなくオペレートできるようになる。			
10	ProTools応用編2			録音→再生→より高度な修正(特殊パンチン 録音)→高度な波形編集 の手順をストレスなくオペレートできるようになる。			
11	録音 再生 特にモニターバランス 音量を体感する			レコーディング時のモニターバランスの良し悪しが作品のクオリティーに影響することを実際に演者立ち位置で体験し認識する。			
12	録音 再生 特にモニターバランス 音量を体感する ラージモニタースピーカー			レコーディング時、演者返しの2ミックスバランスを素早く作る、さらにラージモニターを使用し、あらゆる環境においても再生音に不具合がない音作りを習得する。			
13	音源に対するマイク選定			音源の周波数特性とアーティストが目指す音を素早く把握し的確なマイク選定及び演奏環境作りを授業経験を基にあらゆる視点で判断できるようになる。			
14	楽譜の読み方			楽譜、または楽曲構成表の見方及び現場用語を身につけ、スタジオワークをスムーズに進めることができるようになる。			
15	前期末試験						
16	プレイリストの活用			テイクの扱いについての方法を習得する。現場ではプレイリストの活用は必須である、それを理解し的確に判断及び操作ができるようになる。			
17	オーバーダビング及び直し1 同日の場合			楽器のオーバーダビング。(Gt Ba 等、弦楽器系の波形を考慮し的確な処理ができるようになる。)			
18	オーバーダビング及び直し1 同日の場合			楽器のオーバーダビング。(Pf key 等、鍵盤楽器系の波形を考慮し的確な処理ができるようになる。)			
19	オーバーダビング及び直し2 別日の場合			歌系オーバーダビング1。(Vo 等、歌詞カード及びマーカー付けの重要性を理解し歌系の波形を考慮し的確な対応、処理ができるようになる。)			
20	オーバーダビング及び直し2 別日の場合			歌系オーバーダビング2。(choユニゾン 字ハモ 及びウーア系 等、歌系の波形を考慮し的確な処理ができるようになる。)			
21	ミックスダウン1			バランスの基本について理解し、プラグイン及びアウトボードの効果的な使用ができるようになる。			
22	ミックスダウン2			定位の基本、ステレオ モノラルの場合 について理解する。			
23	ミックスダウン3			イコライザー コンプレッサーの各パラメーターの動作を理解し、快適なサウンドを創る判断ができる耳を作る。			
24	マスタリング			実習で制作した素材を基にマスタリングを体験する。(マスタリングの重要性を理解し実際の工程及びコツを知る。)			
25	ライブレコーディング 配信用動画制作 1			D-POP PROJECTION(コンサートイベント)の収録のための機材選定。			
26	ライブレコーディング 配信用動画制作 2			D-POP PROJECTION(コンサートイベント)の収録。オンマイク収録におけるP.Aセクションとのマイクの共有を認識し他セクションとの共同作業の問題点、進め方を覚える。			
27	ライブレコーディング 配信用動画制作 3			D-POP PROJECTION(コンサートイベント)の収録。オフマイク			
28	ライブレコーディング 配信用動画制作 4			D-POP PROJECTION(コンサートイベント)本番のリハーサル、ゲネプロへの絡みを実践。			
29	ライブレコーディング 配信用動画制作 5			D-POP PROJECTION(コンサートイベント)本番収録。機器の誤作動への対応を身につける。			
30	後期末試験						

授業科目名	MA実習		担当者名	田村康晴			
			実務経験	株式会社東北記録映画社20年以上実務経験			
教科書	・サンプル映像素材	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
	・サンプル音源等	4					
	・PremierePro&AfterEffects	時間数 120					
授業概要	企画・構成・脚本・絵コンテ、映像と音声を使用したビデオ撮影、及び音声編集実習を通し、映像制作の音声を中心に学ぶ。ラジオCMなど制作等で、MA制作実習を中心に実施する。						
学習到達目標	映像の音制作の基盤となる「感性力」、映像撮影の音声技術・音編集のMA基本技術力を習得する。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、作業効率化に向けたマニュアルの更新と振り返りを継続すること。						
評価方法	出席率10%、授業意欲10%、課題提出30%、期末試験50%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	MAについて・MAの仕事とは・映像制作の過程			MA仕事の基本講義			
2	ライブカメラ機材の講義			カメラ機材の基本操作が出来るようになる			
3	CMの音入れ込み実習1 音楽・効果音のつけ方			課題映像に、基本効果音をつけることが出来る			
4	CMの音入れ込み実習2 イコライザーを使用した音の変化			課題映像に、合う音楽をつけることが出来る			
5	CMの音入れ込み実習3 音のバランス			映像に、適正な音レベルを取ることが出来る			
6	プレゼン・作品試写会・総評			自分の考えを述べ、試写会にて発表する			
7	効果音・SE制作 収録機を使用した音作り①			様々な道具を使用し音を収録することが出来る			
8	効果音・SE制作 収録機を使用した音作り②			様々な道具を使用し音を収録することが出来る			
9	ラジオCM収録実習 MA実習 音楽・効果音のオールミックス作業①			収録した音を、綺麗にMIXできる			
10	ラジオCM収録実習 MA実習 音楽・効果音のオールミックス作業②			収録した音を、綺麗にMIXできる			
11	ラジオCM収録実習 試写会			自分の考えを述べ、試写会にて発表する			
12	映画予告CM映像 SE編集 ナレーションを使用したオールミックス			NAと音楽のバランスを取ることが出来る			
13	映画予告CM映像 SE編集 ナレーションを使用したオールミックス			NAと効果音のバランスを取ることが出来る			
14	映画予告CM映像 試写会			自分の考えを述べ、試写会にて発表する			
15	前期テスト			実技テスト			
16	映画予告CM映像2 ピークメーター・VUメーター・ラウドネスメーター			各メーターを場面的に活用することが出来る			
17	映画予告CM映像2 テレビ用想定 音源制作			ラウドネスメーターを活用することが出来る			
18	映画予告CM映像2 効果音編集			爆発音を制作することが出来る			
19	映画予告CM映像2 効果音編集			季節をイメージする音を作ることが出来る			
20	映画予告CM映像2 効果音編集			様々な足音を作ることが出来る			
21	映画予告CM映像2 試写会			全体試写会・総評			
22	企業用サウンドロゴ用 アニメーション音源作成			効果音を混ぜ合わせ、サウンドロゴを作成			
23	企業用サウンドロゴ制作 オリジナル音源制作①			効果音を混ぜ合わせ、サウンドロゴを作成			
24	企業用サウンドロゴ制作 オリジナル音源制作②			効果音を混ぜ合わせ、サウンドロゴを作成			
25	企業用サウンドロゴ制作 オリジナル音源制作③			効果音を混ぜ合わせ、サウンドロゴを作成			
26	企業用サウンドロゴ制作 完成試写会			自分の考えを述べ、試写会にて発表する			
27	プロ用MA素材 仕上げ実習			プロの音源を使用してMA作業が出来る			
28	プロ用MA素材 同様仕上げ実習			プロの音源を使用してMA作業が出来る			
29	プロ用MA素材 同様仕上げ実習 試写会			全体試写会・総評			
30	後期テスト			実技テスト			

授業科目名	ステージライティング実習(2)		担当者名	佐藤新			
			実務経験	株式会社 東北共立にて舞台照明、テレビ照明(27年)			
教科書 教材	コンサートライティング入門 配布資料(プリント)	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		14					
		時間数					
		420	ミュージックスタッフ科	2年	通年	必修選択	実習
授業概要	舞台照明の理論と実技を学ぶ。 照明機材の安全な操作方法、様々な灯具の光の特性を活かした効果的な演出方法を取得する。 コンサートホール、ライブハウス、野外特設ステージなどあらゆる場所で実習を行い現場で求められる技術力、対応力を身につける。						
学習到達目標	実習で学んだ照明の知識と技術をより実践的に使い更なる向上を目的とする。 自己表現や対人力を身につけ舞台制作が遂行出来る力をつける事を目標とする。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、実習での仕込み図面予習、復習、課題曲Qシート作成、様々なジャンルの音楽を聴いて照明のイメージトレーニングを継続的に行うこと。						
評価方法	出席率(20%)、実習の取り組み方(20%)、課題提出(10%)、期末試験の結果を総合評価(50%)						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	学校にある一般照明、LEDライト、ムービングライトの取り扱い、仕込み、撤去の仕方、ケーシング等			様々な灯具の理解、安全な取り扱い方、ケーシングが出来る			
2	灯具の配線の仕方、電気の容量などについて(強電、弱電)			仕込み、撤去の際に事故防止の安全な作業が出来る			
3	スプリッター、DMXワイヤレスについて			DMX信号の流れを理解する			
4	仕込みから回路取り、仮シュート、本シュートの実践			実践的な流れの中での作業が出来る			
5	照明卓の使い方について説明、実際に卓を触って基本的な操作方法の説明			卓を触れて調光卓について理解を深める			
6	ムービングライト、LEDライトのエフェクトの作成、修正について			調光卓のより実践的な使用方法を身につける			
7	実際のコンサートやお芝居などの仕込み図面を参照しながらどの様に視覚的な演出をしているかを説明			様々な仕込み図面などを参照して照明効果などを理解する			
8	仕込み図面の作成方法の仕方、PINSPOTの使用方法について			PCでの仕込み図面を作成出来る PINSPOTを思ったように操作出来る			
9	課題曲での仕込みから明かり作り、PINSPOT操作			調光とPINをしっかりと合わせる事を理解する			
10							
11	ライブハウス(仙台PIT)での照明実習			D-POPでの会場となる場所で実習をして色々な経験値を得る			
12	PINSPOTのQだしについて			曲を身体で覚えるという事 小節を数えながら相手にQを出せる			
13	前期課題曲でグループ内での照明プランからプログラム調光操作			自分のプランニング通り出来たか出来なければその理由を考える			
14							
15	※前期末試験						
16	調光卓での打ち込み等について (D-POPチーフ、サブチーフ決め)			自分が思うように卓操作が出来る			
17	様々なホール、ライブハウス、野外特設ステージに出向いて照明実習 音楽ホールや野外特設ステージの舞台機構などを説明			様々なホールを使用して、より現場に近い環境での経験値を得る事			
18							
19	後期課題曲での照明プランニング			課題曲から自分で照明プランからプログラムまで出来る			
20	D-POP校内リハーサルに向けての仕込み図面作成 フェーダー表作成、D-POP本番でのポジション決め確認			照明図面を作成し学生達での検証確認 問題点の確認			
21							
22	校内リハーサルに向けての仕込み段取り確認 Qシート作成、卓での打ち込み、修正等について			頭の中で明かりを作る事 Qシート作成と修正			
23	校内リハーサル本番。それぞれ担当場所での役割確認			本番を想定しながら自分の役割を理解し任務を遂行出来る			
24	仙台PITでのD-POPに向けての実習。本番会場での仕込みから演出までの 総合的な実習をする			本番会場での実習により表現力や創造性を養う事が出来る			
25							
26	D-POP本番、PINSPOTオペレート、卓オペレートの確認			自分のイメージした照明を表現出来る			
27	綱元操作方法など様々な舞台機構などを説明			舞台機構の使い方を理解する			
28	学生達による照明プランと調光オペレート			受講してきた事の集大成として舞台照明をより楽しむことが出来る			
29							
30	※後期末試験						

授業科目名	舞台照明プランニング実習		担当者名	石川智英			
			実務経験	全国コンサートツアーオペレーター			
教科書 教材	コンサートライティング入門	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
	電気技術講義テキスト	4					
	配布資料	時間数					
		120	ミュージックスタッフ	2年	通年	必修選択	講義
授業概要	照明プランニングの概要の習得と電気技術の基礎知識の習得						
学習到達目標	照明プランの作成と照明家協会2級試験合格程度(電気技術)の実力の習得						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に 行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、授業内容の振り返りを行い、理解の深 化に努めること。加えて、実務講習で想定される機材や関連設備等の取り扱いについて自主的に理解を深め、実践的な技術の習得 に努めること。社会人として求められる知識・技能・態度を身につけ、実務の現場において実践できる力を養うため、主体的に学修す ること。						
評価方法	出席率10%、授業態度10%、期末試験50%、レポート30%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	コンサートライティング入門 スタッフの1日			1日の業務内容 仕込みから撤収作業まで			
2	制作会社 プロダクションの紹介 就職ガイダンス 資料の配布			照明制作プロダクション会社の紹介			
3	光の性質 方向による表現 光の制御コントロールによる表現			照明の性質を理解してもらう			
4	光の色についての表現 カラーフィルター 色温度の変化について			基礎となる色とその表現を具体的に説明			
5	各演目によるライティングデザインの考え方 舞踊(洋舞 日舞)コンサート TV			参考課題による映像の紹介レポート課題			
6	図面作成に至るまでの手順 Qシート作成 図面作成 フェーダー表/データ作成			曲による図面作成の課題			
7	図面作成に至るまでの手順 Qシート作成 図面作成 フェーダー表/データ作成			台本によるデータ作成の課題			
8	曲を提供してのQシートの作成とデーター作成			Qが的確かどうか			
9	曲を提供してのQシートの作成とデーター作成			データの表現が的確かどうか			
10	歌詞の表現から照明プランの作成			起承転結の構成データの作成がポイント			
11	台本 台詞から読み取れる照明プランの作成			場面の变化 構成を考えてもらう事			
12	今現在の照明プランの実例			演出プランの習得			
13	演出空間において特殊効果器具について紹介			レーザー 映像LEDとの効果			
14	テレビ照明による表現方法			照度と輝度の知識の習得			
15	テレビ照明による表現方法 実技 色温度の使い方			実技			
16	安全管理			配布資料			
17	制御信号 DMX512について			配布資料			
18	照明家協会2級試験の問題			配布資料			
19	映像に見る配信における照明のプランについて			配布資料			
20	前期末 年度末試験の実施			評価対象			
21	電気の歴史、電気の基礎計算			電流や電力の計算ができること。			
22	演出空間照明家に求められる資格			電気の取扱いに必要な資格について理解			
23	世界の電圧と周波数について			日本や主要諸国の電圧、周波数を説明できること			
24	照明設備電源 電源方式 中性線 負荷バランスについて			電源方式を説明できること			
25	電源ケーブル コード類の選択について			演出空間で使用するケーブルと許容電流について 理解してもらうこと			
26	演出用空間配線器具と制御について			使用できる電線について理解してもらう事			
27	照明設備について プラグ アダプタ と接地の重要性について			100V 200Vの形状について理解			
28	仮設照明設備について 発電機 ジェネレーターの説明			発電機から照明卓までの設置方法			
29	電気事故 ノイズ障害 漏電など様々なトラブルについての説明と対策			電気事故の傾向と対策を理解すること テスター等の使い方 電気容量確認			
30	学期末試験			総合評価			

授業科目名	舞台美術実習(2)		担当者名	木 村 芳 孝			
			実務経験	テレビ、舞台美術50年の実務経験			
教科書 教材	講師作生プリント配布	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		14					
		時間数					
		420					
			ミュージックスタッフ科	2年	通年	必修	講義・実習
授業概要	舞台美術の基礎を、実務体験を伝えること、また実習を行うことにより教科書や理論では得られない実務型従業とする。						
学習到達目標	基礎知識を理解習得し、実現場体験(実習)を遂行できる基礎的力を習得させる。また、卒業後は短期間で即戦力となり業界で活躍する人材育成を目指す。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの当該箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には日々の積み重ねが不可欠である。具体的には最新の舞台制作の事例をサーチし、現場実習で得たフィードバックを元に自身の作業能力の課題を整理・改善すること。						
評価方法	期末テスト、課題提出、実習取組み姿勢、出席率等を総合的に判断して評価する。 出席率20%、課題30%、期末テスト50%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	・一年間の授業について、一年生の復習。 ・工具の使用と安全管理			卒業、即戦力のための実践的授業とする。			
2							
3	大道具製作① ・基本パネル(3×6)の制作。 ・応用パネル(3×8)の製作 ・パネルへの経師。			大道具製作の基本。製作体験により各種の工具を使いこなし、安全管理を体で覚える。			
4							
5							
6							
7	ドラム台の組込み。			時間制限の現場で必要なスピードで実践できる			
8	吊り物実習(大きな繋いだパネルをバトンに釣る。 ・パネルの繋ぎ方、立て方。 ・パネルをバトンに吊る。			現場での危険な作業を安全に実践できる。			
9							
10							
11	大道具製作② ・課題①ヌリ(柄を描く、汚し) ・課題②装飾柱(煉瓦、大理石、木目、他) ・課題③組みパネル(違う形のパネルの組み合わせで一枚のパネルに)			実際の大型大道具を制作する。そのまま舞台、テレビの現場で使用されることが出来る品室に。			
12							
13							
14							
15							
16	卒業制作の企画 ・卒業作品についての作品を決め企画書にまとめる。			2年間の集大成となる作品を(実物、模型)			
17							
18	D-POPの企画、美術プラン作成 ・コンプロとの話合いで舞台美術のプラン作成。			美術プランを提案する。			
19							
20	D-POPの公演に向けて ・舞台図面及、大道具の制作図面作成(平面図、正面図、展開図) ・大道具の製作。 ・現場建込、リハーサル、本番立合い、撤去、積込作業。			実際の公演の総合的対面となる。卒業を控え2年館の集大成。卒業後この現場で学んだ事を実践出来る力を。			
21							
22							
23							
24							
25	卒業作品の制作 ・実物大の大道具、又はその一部分。 ・舞台、テレビのセットの模型。 ・舞台、テレビ、コンサート等のジオラマ。			展示に耐え得る作品に仕上げる。			
26							
27							
28							
29	卒業策品展示会 ・展示会場の設営から撤去まで			2年間学んだことでプランの提案、道具製作及び現場設営実践出来る力。			
30							

授業科目名	舞台美術図面制作実習		担当者名	木 村 芳 孝			
			実務経験	テレビ、舞台美術50年の実務経験			
教科書 教材	講師作生プリント配布	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数	ミュージックスタッフ科	2年	通年	必修	講義・実習
		120					
授業概要	舞台美術の基礎を、実務体験を伝えること、また実習を行うことにより教科書や理論では得られない実務型従業とする。						
学習到達目標	基礎知識を理解習得し、実現場体験(実習)を遂行できる基礎的力を習得させる。また、卒業後は短期間で即戦力となり業界で活躍する人材育成を目指す。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの当該箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には日々の積み重ねが不可欠である。具体的には最新の舞台制作の事例をサーチし、現場実習で得たフィードバックを元に自身の作業能力の課題を整理・改善すること。						
評価方法	期末テスト、課題提出、実習取り組み姿勢、出席率等を総合的に判断して評価する。 出席率20%、課題30%、期末テスト50%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	舞台の図面とイラストレーターについて。 ・一年次の手書き図面の復習			イラストレーターを使いこなして舞台関係の各種図面を提案出来ることを目標とする。			
2							
3	イラストレーターの基礎 ・イラストレーターの使い方、その機能。 ・イラストレーターので作図するための準備。			イラストレーターの基本を知り、作図に必要な機能を使いこなせるようになる。			
4							
5							
6	図面作成の基礎 ・一年次作成の手書き図面をイラレで作成。 ・自分専用のベース図面を作る(1/100、1/50、1/10)			舞台図面をイラレで作成、デザインを含めプラン、作図ができるようになる。			
7							
8							
9	図面のトレース ・仙台PITの舞台平面図をトレースする。			全ての公演は図面に始まる。D-POPの公演が12月に行われるその準備のためとレースした図面でプランを提案する。			
10							
11	大道具製作図面 ・3×6、3×8パネルの製作図面 ・装飾尺柱の製作図面 ・3×6組みパネルの製作図面			図面を作製し、わかりやすく解説、説明できるようになる。			
12							
13							
14							
15							
16	卒業制作 ・卒業作品についての作品を決め企画書にまとめる。 ・作品の資料、解説文書の作成。 ・作品の製作のための各種図面の作成。			展示する図面、企画書に仕上げ、分かりやすく解説できるようになる。			
17							
18							
19							
20	D-POPの公演に向けて ・デザイン、図面作成するための各セッションとの話し合い。 ・仙台PITの舞台平面図及、正面図の作成。 ・大道具製作のための各種展開図の作成。			実際の公演において必要な各種のプランを図面化して各セッションに提案し、説明できるようになる。			
21							
22							
23							
24							
25	卒業作品制作 ・制作物の各種図面の作成。			展示に耐え得る図面に仕上げる。			
26							
27							
28							
29	卒業策品展示会 ・展示会場のレイアウト図面作成。			2年間学んだことでプランの提案、図面の解説、説明を実践出来る力を身につける。			
30							

授業科目名	ProTools実習(2)		担当者名	佐々木 朋義			
			実務経験	ヤマハ音楽振興会講師&AF、ギタリスト、ミュージックコンポーザー			
教科書 教材	・配布資料(プリント、PDF) ・ProTools11徹底操作ガイド	単位数	学科	学年	学期	科目種別	授業方法
		4					
		時間数					
	120						
授業概要	音楽制作ソフト『ProTools』の基本と知識を習得する。現場にて即戦力になるスキルを身につける。						
学習到達目標	1、ProToolsにおける録音、編集、ミックス、簡易マスタリングといった音楽制作の一連の流れを体験しながら、音声データの扱い方や制作技術を習得する。 2、音楽制作だけではなく、映像編集やナレーション収録など、実務での活用も視野に入れたスキルの習得を目指す。						
時間外に必要な学修	各回の授業内容に基づき、テキストの該当箇所の予習(約30～60分)と、配布資料や課題を用いた復習(約60～90分)を継続的に行うこと。専門用語の習得や技術の定着には、日々の積み重ねが不可欠である。具体的には、プロが作成した作品にどんな工夫があるかを考え、自身の作品に活かせるように音楽と向き合う。						
評価方法	出席率10%、授業内課題の提出30%、実技試験50%						
週数	授 業 内 容			到達目標・学習課題など			
1	イントロダクション『ProTools実習』について			Macの起動とProTools立ち上げ。操作方法の確認し、基本となる編集方法を行う事ができる。			
2	昨年のおさらいとマルチミックス編集			バンド系バラ素材を使用し、昨年習得したスキルを用いて、一般的なバンドミックスを作り上げる。			
3	動画トレーラーに使用する2mix音源の編集			動画トレーラーを参考に音声ファイルを作成する。カットポイントやフェードインアウトを忠実に再現する。			
4	ヴォーカルOKテイク作成 ①			複数の歌テイクからより最適な部分を選び出し、作品に使用できるヴォーカルのOKテイクを作成する。			
5	ヴォーカルOKテイク作成 ②			歌に加えてアコギの素材も使用し、2パートのOKテイクを作成し音楽的にミックスを完成させる。			
6	よりプラグインの使い方を学ぶ。			プラグインの選び方、設定のテクニックを体験し、音に必要なプラグイン処理を設定する事ができる。			
7	クリックに合わせた編集①			素材をクリックに合わせて、小節管理された素材の編集を行う事ができる。			
8	弾き語りMix			歌とギターの弾き語りミックス作成し、CDに作成可能なマスタリング処理まで完成させる。			
9	バンドMixその1 ①			トラック数の多いバンドミックスを完成を目指す。各トラックの役割を聞き、仮ミックスを完成させる。			
10	バンドMixその1 ②			前回の仮ミックスにVoのOkテイクを作成し、各トラックをブラッシュアップする。			
11	バンドMixその1 ③			前回までの素材にAux設定を適切に行いミックスを完成させる。またマスタリング処理も行い、音楽的に美しく仕上げる。			
12	バンドMix総論			自身の音源と他者の音源を聴き比べて、違いを発見し、レポートにまとめて提出する。			
13	前期試験対策			前期試験の傾向と対策。			
14	前期試験						
15	前期試験解説						
16	バンドMixその2 ①			コーラスパートが複数存在するバンドバラ音源をミックス。声に注意しながら、仮ミックスまで仕上げる。			
17	バンドMixその2 ②			前回の仮ミックスをよりブラッシュアップし、歌、コーラスに存在感があるバンドミックスに仕上げる。			
18	バンドMixその3 ①			通常のマイクセッティングとは異なる素材のバンドミックス。マイクの意味を理解した上で仮ミックス設定を行う。			
19	バンドMixその3 ②			必要なマイクに効果的なプラグイン設定等を行い、一般的なミックス音源のような聴感を作り出す。			
20	楽器セッティング講習			現場における楽器の理解度を高めるため、実際の楽器(ギター、アンプ等)のセッティングを行う。			
21	バンドMixその4『ライブ音源』①			ライブ録音されたバラ音源素材用いて、ミックスを仕上げる。(仮ミックスまで)			
22	バンドMixその4『ライブ音源』②			被りの多いライブ録音されたバラ音源を適切に処理し、バンドミックスを仕上げる。(マスタリングまで)			
23	バンドMixその5『録音を伴う音源の制作』録音 ①			自身達で楽器を演奏しそれを録音する事で、自分たちで素材を作り出す。			
24	バンドMixその5『録音を伴う音源の制作』録音 ②			録音が適切に行われているかを意識しながら、録音レベル、マイクセッティング等を処理できる。			
25	バンドMixその5『録音を伴う音源の制作』ミックス ③			自身達で録音した素材を確認しながら、ミックスを作成する。(仮ミックスまで)			
26	バンドMixその5『録音を伴う音源の制作』ミックス ④			目指す方向を考えた上で使用するプラグインや設定を行い、テーマにあったミックス音源を完成させる。			
27	バンドMix試聴会			録音からミックスまで行った音源を視聴し、自身の音源と他者の音源を聴き比べレポートにまとめて提出する。			
28	後期試験対策			後期試験の傾向と対策。			
29	後期試験						
30	後期試験解説						